令和４年度(2022年度)

シラバス(授業計画)

理学療法学科一部

科目名	心理学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	宮崎　正明（所属　長崎大学 名誉教授 ）　　（実務経験*：無）						
科目担当者	宮崎　正明						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	人間の行動を科学的に究明する
授業の到達目標	医療スタッフとして適応するための自己理解及び患者の理解のために人間の心理や行動の基礎を学ぶ。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	心理学の意義と領域	宮崎正明
第2回	性格の心理Ⅰ（性格とは何か、診断）	宮崎正明
第3回	性格の心理Ⅱ（正確の理解、類型論等）	宮崎正明
第4回	適応の心理Ⅰ（自己意識、自我同一性）	宮崎正明
第5回	適応の心理Ⅱ（適応、不適応）	宮崎正明
第6回	適応の心理Ⅲ（適応機制）	宮崎正明
第7回	人間関係Ⅰ（対人認知、印象形成）	宮崎正明
第8回	人間関係Ⅱ（対話の技術、対人距離、説得の方法）	宮崎正明
第9回	人間関係Ⅲ（原因帰属、動機付け）	宮崎正明
第10回	集団の心理Ⅰ（集団の形成、集団の動き）	宮崎正明
第11回	集団の心理Ⅱ（リーダーシップ、意思決定、カウンセリングの精神）	宮崎正明
第12回	学習の心理Ⅰ（学習理論、条件づけ学習、認知学習、）	宮崎正明
第13回	学習の心理Ⅱ	宮崎正明
第14回	学習の心理Ⅲ	宮崎正明
第15回	思考の心理	宮崎正明
第16回	思考の心理	宮崎正明

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	
履修条件	

教科書	系統看護学講座　基礎分野　心理学（医学書院）
参考書	

科目名	日本語表現法			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	古市　寛　（大村総合法律事務所）					実務経験*：無	
科目担当者	古市　寛						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	1．思索する力を高める。 2．言葉の知識を学ぶ。 3．諸文芸作品を通して「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」力を養う。
授業の到達目標	社会人としては勿論、優れた職業人として社会貢献が出来るような人間を目指して、その基盤となる人間力を、日本語表現を通して身に付ける。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	本講座で、何をどんなふうに学ぶかについて概説。	古市　寛
第2回	「優れた職業人とは」について討論し、論述する。	〃
第3回	「読む、聞く、聞く、話す」の言語活動についての概説・演習。	〃
第4回	「読む力」のための知識を学ぶ・演習1。	〃
第5回	「書く力」のための技能を学ぶ・演習2。	〃
第6回	「聞く力」のための技能を学ぶ・演習3。	〃
第7回	「話す力」のための技能を学ぶ・演習4。	〃
第8回	「読む、書く、聞く、話す」に関する総合演習。	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　☑小テスト　☑レポート　□その他(　　) （60％）　（　％）　（　％）　（10％）　（30％）　（　％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	「生きること」や「命」について考えるアンテナを高く。 そのため「ことば学習ノート」などを常備する。 なお、学習形態は、グループによるアクティブラーニングとする。
履修条件	「気迫と情熱」

教科書	関係資料配布
参考書	必要に応じて紹介、配布する。

科目名	人間関係論			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	幸　史子（活水女子大学　看護学部看護学科教授）					（実務経験*：無）	
科目担当者	幸　史子						
学　科	理学療法学科一部					学・年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義・演習	単位数	1単位	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	医療現場では、患者や利用者だけでなく、家族やチーム医療メンバー間など、様々な場面で、高いコミュニケーション能力が求められる。本授業では、講義やグループワークを通して、好ましい対人関係とその手段としてのコミュニケーション能力について学ぶ。また自己を振り返ることで、自分の傾向を知り、関係改善に向けた取り組みができるようリフレクションについて学ぶ。
授業の到達目標	1. 人間関係とは何かについて、説明できる。 2. コミュニケーションの種類や手法について説明できる。 3. 様々な手法を用いたコミュニケーションが実践できる。 4. 自己を振り返るためのリフレクションについて説明できる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	授業ガイダンス　人間関係とは何か？　医療従事者に求められる対人関係とは？	幸
第2回	自己理解・他者理解、援助的関係構築、コミュニケーションの種類と概要	幸
第3回	コミュニケーションの種類と方法、コミュニケーションと人間関係	幸
第4回	コミュニケーションに必要な能力、医療におけるコミュニケーション	幸
第5回	チーム医療とコミュニケーション	幸
第6回	演習：事例を通したコミュニケーション	幸
第7回	リフレクションとは、　プロセスレコードとロールプレイ	幸
第8回	社会人としてのマナー（Customer satisfaction）　総括	幸

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　□実技試験（%）　□実習評価（%）　□小テスト（%）　□レポート（%）　□その他（%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	講義の内容特に言葉の概念について、配付資料を基に復習し、まとめておくこと
履修条件	スマホやその他の機器類の持ち込みは禁止する。

教科書	配付資料
参考書	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド

科目名	文化人類学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	畠山　均（所属　長崎純心大学人文学部 客員教授　）（実務経験*：無）						
科目担当者	畠山　均						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	文化人類学は主として自分が生まれ育った文化とは異なる他の文化（異文化）を様々な視点から研究し、自文化と比較する事を通して自らの文化を客観的・相対的に見る視点を与えてくれる。その意味で文化人類学は自己理解の学問である。 この講義ではこれまでの文化人類学の研究成果を踏まえ、現代世界において「文化とは何か」と問う事の重要性について共に認識を深める。
授業の到達目標	1．現代日本の異文化状況を理解し、説明できる。 2．「見える文化」と「見えない文化」の違いを理解し、「見えない文化」を理解する事の重要性を説明できる。 3．文化と価値観との関係を理解し、説明できる。 4．偏見とステレオタイプが文化背景を異にする他者を理解する上でどのように影響しているのかを理解し、具体的事例について説明できる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	人のグローバル化－現代日本の異文化状況	畠山
第2回	偏見とステレオタイプ－日本人のイスラム教徒の理解を例として	畠山
第3回	文化とは何か（1）－高等文化と一般文化	畠山
第4回	文化とは何か（2）－見える文化と見えない文化	畠山
第5回	価値観と行動（コミュニケーション）	畠山
第6回	文化の学習性－人間は文化を学習する	畠山
第7回	文化と知覚－時間間隔を中心に	畠山
第8回	異文化理解の障害－ステレオタイプ再考	畠山

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　☑レポート　☑その他（ブックレポート） （50%）　（　%）　（　%）　（　%）　（30%）　（20%）
準備学習 学習へのアドバイス	講義だけではなく、動画視聴、グループディスカッションなどを頻繁に取り入れ、問題解決型授業を目指す。グループディスカッションには積極的に参加すること。
履修条件	なし

教科書	21世紀研究会編『常識の世界地図』文春新書.
参考書	授業中に指示する

科目名	社会福祉概論　／　福祉援助論			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	鹿山　誉史（国立病院機構長崎病院　医療ソーシャルワーカー）（実務経験*：無）						
科目担当者	鹿山　誉史						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	人びとの生活を保障する社会福祉の形成過程をふまえて法律や制度、福祉サービスを理解し、援助方法について基礎的な知識を学ぶ。これらの学びをとおして、言語聴覚士としてそれらを社会資源として活用できるようになることを目指す。
授業の到達目標	社会福祉の法律と制度の概要を理解できる 社会福祉のサービスを理解できる 社会福祉の援助を理解できる

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	社会福祉の歴史	鹿山
第2回	社会福祉の法律と制度	鹿山
第3回	高齢者福祉サービス	鹿山
第4回	障害者福祉サービス	鹿山
第5回	児童家庭福祉サービス	鹿山
第6回	地域福祉サービス	鹿山
第7回	社会福祉の援助1	鹿山
第8回	社会福祉の援助2	鹿山

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	リハビリ専門職として関わる人々を取り巻く制度や社会保障等に理解を深めることで、さらなる専門職としてのスキルと高めてください。
履修条件	積極的に取り組み、私語等は慎むこと

教科書	医学書院『系統看護学講座　社会保障・社会福祉』
参考書	

科目名	生物学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	久保　惣二郎　（所属　青雲高等学校 教諭 ）					（実務経験：無）	
科目担当者	久保　惣二郎						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	専門科目の基礎となる人体の構成、機能と調節、代謝、ヒトの遺伝などについて基礎知識を学習する。
授業の到達目標	1．細胞のはたらき、組織・器官の役割を理解する。 2．エネルギーの移動に注目して、代謝のしくみを理解する。 3．恒常性の維持と外部環境との関わりを理解する。 4．生殖と発生、遺伝について理解する。 5．受容器と効果器の構造とはたらきについて理解する。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	生物の分類、細胞のはたらき	久保
第2回	光合成のしくみ、呼吸のしくみ	久保
第3回	エネルギー交代、内部環境	久保
第4回	遺伝子とDNA、生物の生殖法	久保
第5回	遺伝法則、様々な遺伝現象	久保
第6回	動物の発生のしくみ	久保
第7回	受容器の構造とはたらき	久保
第8回	効果器の構造とはたらき	久保

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	講義資料を繰り返し熟読し、理解するよう努めること。
履修条件	必ず出席すること。積極的な態度で受講すること。

教科書	人間のための一般生物学　裳華房
参考書	必要時の授業で紹介する。

科目名	物理学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）					（実務経験*：有）	
科目担当者	井ノ上　修一						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法士・作業療法士に必要な力学について講義・演習します
授業の到達目標	力学の基礎事項（力・重量・モーメントなど）について理解する 国家試験に出題されるレベルの問題を解けるようになる

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	物理学とは　物理学を学習する理由　力学の基礎事項	井ノ上
第2回	問題演習	井ノ上
第3回	問題演習	井ノ上
第4回	問題演習	井ノ上
第5回	問題演習	井ノ上
第6回	問題演習	井ノ上
第7回	問題演習	井ノ上
第8回	まとめ	井ノ上

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	特に準備する必要はありませんが、講義中に演習する問題を根本から理解するようにしてください。
履修条件	

教科書	中村隆一・他：基礎運動学．医歯薬出版
参考書	

科目名	統計学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	中道　隆広（長崎総合科学大学 総合情報学部 総合情報学科 助教 ）（実務経験*：無）						
科目担当者	中道　隆広						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	データ処理を行うためには統計手法を用いることが必要である。統計手法を適切に利用するために、前提となる重要な考え方を学びデータ処理を行う前から統計手法を意識できるようにする。
授業の到達目標	統計処理の基本を理解 仮説を検証することができるようになる。 統計的仮説検定を理解し、評価することができる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	統計学の基礎知識	中道
第2回	データのまとめる方法	〃
第3回	標本と母集団	〃
第4回	分散と標準偏差	〃
第5回	正規分布とそのほかの分布	〃
第6回	仮説の立て方	〃
第7回	統計的仮説検定のしくみ	〃
第8回	有意差検定の意味	〃
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	教科書を中心に講義を進め、適所でパワーポイントを使い重要な個所の説明を行います。
履修条件	

教科書	健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学　出村慎一、杏林書院
参考書	

科目名	保健体育１			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	山下　克己（所属　向陽学園　向陽高校）　（実務経験*：無）						
科目担当者	山下　克己						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクレーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。
授業の到達目標	1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第１回	オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習	山下
第２回	ゲーム・ミーティング	山下
第３回	ルール確認・グループ分け・練習	山下
第４回	ゲーム・ミーティング	山下
第５回	ルール確認・グループ分け・練習	山下
第６回	ゲーム・ミーティング	山下
第７回	ルール確認・グループ分け・練習	山下
第８回	ゲーム・ミーティング	山下

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験（　%）　■実技試験（10%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　■レポート（10%）　■その他(出席・態度)（80%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	実技試験１割、レポート１割、出席６割、授業態度２割で評価します。 出席での評価の割合が高いので、休まないこと。
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	外国語１			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	Garrott, Jackson Maxfield （ギャロット・ジャクソン M.） ＊実務経験：無						
科目担当者	Garrott, Jackson Maxfield （ギャロット・ジャクソン M.）						
学 科	理学療法学科一部			学 年	1		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とは、PT・OT・ST の経験となります。

授業の概要（主題）	Teaching medical terminology through participation in practical medical settings, using memorization and performance.
授業の到達目標	Language is useful only when used. The aim is for the students to be able to use English in their eventual work settings, with patients and staff.

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第１回	Introductions and foundation of English as a communication tool.	
第２回	Common symptoms and patient complaints	
第３回	Continuation of common symptoms and patient complaints	
第４回	Orthopedic issues, Psychiatric issues	
第５回	Pregnancy and OB·Gyn issues	
第６回	Stroke issues	
第７回	Specifically Physical Therapy issues	
第８回	Review and examination preparation	

成績評価の方法（評価の基準）	X 定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他(　　) (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	Students are expected to make notes of new vocabulary and sentence patterns with each class, not putting things off until just before the examination.
履修条件	Each student is required to use English in each class, performing dialogs, etc.

教科書	*3rd Edition Practical English Conversation for Nurses* from Igaku Shoin
参考書	Lists of applicable sentence patterns and vocabulary are distributed for final review, but not before.

科目名	キャリア教育学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）・他						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	4	時間数	60

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	専門職としての自覚と使命感を認識してもらうため、実際の臨床現場で活躍する多くの理学療法士から講話をいただき、理学療法士を目指す学生としての基本的な心構えを学ぶ。
授業の到達目標	1.　理学療法の対象、治療目的・方法、活動分野を理解し、専門科目と関連できる。 2.　各領域における理学療法士の役割を理解し、自らの将来像をイメージできる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	オリエンテーション（シラバスの説明）	吉田	16	ウィメンズヘルスにおけるPTの役割①	選定中
2	訪問リハビリにおけるPTの役割①	中倉	17	ウィメンズヘルスにおけるPTの役割②	選定中
3	訪問リハビリにおけるPTの役割②	中倉	18	中枢神経障害とPT①	杉谷
4	開業とPT①	坂枝	19	中枢神経障害とPT②	杉谷
5	開業とPT②	坂枝	20	行政におけるPTの役割	川嶋
6	小児分野におけるPTの役割①	脇屋	21	急性期病院におけるPTの役割①	冨田
7	小児分野におけるPTの役割②	脇屋	22	急性期病院におけるPTの役割②	冨田
8	運動器障害とPT①	土屋	23	終末期病院におけるPTの役割①	平川
9	運動器障害とPT②	土屋	24	終末期病院におけるPTの役割②	平川
10	内部障害とPT①	阿比留	25	医療政策とPT①	山下
11	内部障害とPT②	阿比留	26	医療政策とPT②	山下
12	回復期病院におけるPTの役割①	高木	27	通所リハビリにおけるPTの役割①	山崎
13	回復期病院におけるPTの役割②	高木	28	通所リハビリにおけるPTの役割②	山崎
14	スポーツ分野におけるPTの役割①	嵜本	29	教育・研究機関における理学療法士の役割	吉田
15	スポーツ分野におけるPTの役割②	嵜本	30	総括（授業の振り返り）	吉田

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　☑レポート　□その他(　　) (　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(100%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	幅広い理学療法士の職域に触れることで、自らが目指す理学療法士像をさらに探求し、それに向けた短期・中期的な学習計画を立ててください。
履修条件	

教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書	理学療法学テキストⅠ　理学療法学概論　神陵文庫 シンプル理学療法学シリーズ　理学療法概論テキスト　南江堂

科目名	ホスピタリティー論１			開講年度	2022	期	前後期
科目担当責任者	田中 美吉子（所属 合同会社ヒューマンナガサキ）　（実務経験*：無）						
科目担当者	田中 美吉子						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	・社会人としての基本的マナーと他者との関わりについて意識を促す。 状況が許す限り演習を交えながら実践的に教授し、日常生活のあらゆる場面での意識向上と行動変容に繋げる。
授業の到達目標	①社会人としての一般常識・マナーの習得 ②他者との関わり方やコミュニケーション力を身に付ける ①と②により学生達が周囲と良好な人間関係を構築し、豊かな社会生活をおくること

授業計画

回　数	内　容	担　当
第１回	接遇&マナーの基本と第一印象の重要性	田中
第２回	挨拶・TPO に応じた身だしなみ	田中
第３回	非言語コミュニケーション（表情や立居振舞いなど）	田中
第４回	敬語&言葉遣いの基本	田中
第５回	発声練習・心配りを感じさせる話し方	田中
第６回	コミュニケーションについて	田中
第７回	伝える&聴くワーク	田中
第８回	これまでの復習と来年度にむけた目標設定	田中
第９回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法（評価の基準）	☐定期試験（　%）　☐実技試験（　%）　☑演習評価（50%）　☐小テスト（　%）　☐レポート（　%）　☑その他(取組姿勢)（50%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	受講態度も評価の対象ではありますが、あまり堅くならずに受講なさってください。
履修条件	

教科書	なし プリントを配布
参考書	

科目名	解剖生理学総論			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）　（実務経験*：有・無）						
科目担当者	井ノ上　修一						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	解剖学と生理学の総論的な課題についてします
授業の到達目標	解剖生理学の総論的な内容を修得する

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	解剖学と生理学 人体各部の名称　人体の方向や位置を示す用語	井ノ上
第2回	人体の形の特徴 人体の機能と器官系	〃
第3回	細　胞 細胞膜の機能と膜電位	〃
第4回	組　織	〃
第5回	系統別解剖生理概論 呼吸系　循環系　血液系	〃
第6回	系統別解剖生理概論 消化・吸収系　内分泌系　腎泌尿器系　生殖系	〃
第7回	系統別解剖生理概論 運動器系	〃
第8回	系統別解剖生理概論 感覚系　神経系	〃

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他（　　） （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	準備するものは事前に連絡します。 講義中に疑問を解決するように努めてください。
履修条件	

教科書	新看護学1　人体のしくみとはたらき　（医学書院）
参考書	

科目名	解剖生理学Ⅰ(運動器系)			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	氏名　中本 貴大(所属　長崎リハビリテーション学院)（実務経験*：有）						
科目担当者	氏名　中本 貴大(所属　長崎リハビリテーション学院)						
学　科	理学療法学科(一部)					学　年	1
必修/選択	必須	授業の形態	講義	単位数	7	時間数	105

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	人体の構造と機能・解剖学の基礎知識について学ぶ。人体の特徴(動き)を理解する。
授業の到達目標	1. 人体の大要と解剖学擁護・人体の構成を理解できる。 2. 上肢・体幹および下肢の骨を理解できる。 3. 骨の連結・関節の構造と機能を理解できる。 4. 上肢・体幹・下肢の連結を理解できる。 5. 上肢・体幹・下肢の筋の構造・働きについて理解できる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	解剖学総論について	中本	16	骨学各論・下肢の骨(下肢帯)について	中本
2	解剖学総論について	中本	17	骨学各論・下肢の骨(自由下肢骨)について	中本
3	骨学総論について	中本	18	骨学各論・下肢の骨(自由下肢骨)について	中本
4	骨学総論について	中本	19	骨学各論・下肢の骨(自由下肢骨)について	中本
5	骨学各論・体幹の骨について	中本	20	骨学各論・下肢の骨(自由下肢骨)について	中本
6	骨学各論・体幹の骨について	中本	21	骨学各論・下肢の骨(自由下肢骨)について	中本
7	骨学各論・体幹の骨について	中本	22	骨学各論・下肢の骨(自由下肢骨)について	中本
8	骨学各論・体幹の骨について	中本	23	関節靭帯総論について	中本
9	骨学各論・上肢の骨について	中本	24	関節靭帯総論について	中本
10	骨学各論・上肢の骨について	中本	25	関節靭帯各論・脊柱と胸郭の連結について	中本
11	骨学各論・上肢の骨について	中本	26	関節靭帯各論・脊柱と胸郭の連結について	中本
12	骨学各論・上肢の骨について	中本	27	関節靭帯各論・脊柱と胸郭の連結について	中本
13	骨学各論・下肢の骨(下肢帯)について	中本	28	関節靭帯各論・脊柱と胸郭の連結について	中本
14	骨学各論・下肢の骨(下肢帯)について	中本	29	脊柱と胸郭の連結についてまとめ	中本
15	骨学各論・下肢の骨(下肢帯)について	中本	30	関節靭帯各論・上肢の連結について	中本

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	講義には必ず出席し、復習を行うこと。 講義範囲が広い為、質問などは積極的に行い理解を深めること。
履修条件	必須科目であり必ず出席すること。私語を慎み真摯な受講態度を望む。

教科書	A：標準理学療法学・作業療法学　専門分野　解剖学　B：生理学 C：基礎運動学　第6版　補訂 D：プロメテウス　解剖学コアアトラス
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	解剖生理学Ⅰ(運動器系)			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	氏名　中本 貴大(所属　長崎リハビリテーション学院)（実務経験*：有）						
科目担当者	氏名　中本 貴大(所属　長崎リハビリテーション学院)						
学　科	理学療法学科(一部)					学　年	1
必修/選択	必須	授業の形態	講義	単位数	7	時間数	105

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	人体の構造と機能・解剖学の基礎知識について学ぶ。人体の特徴(動き)を理解する。
授業の到達目標	1. 人体の大要と解剖学擁護・人体の構成を理解できる。 2. 上肢・体幹および下肢の骨を理解できる。 3. 骨の連結・関節の構造と機能を理解できる。 4. 上肢・体幹・下肢の連結を理解できる。 5. 上肢・体幹・下肢の筋の構造・働きについて理解できる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
31	関節靭帯各論・上肢の連結について	中本	46	頭部・体幹の筋について	中本
32	関節靭帯各論・上肢の連結について	中本	47	上肢の筋について	中本
33	関節靭帯各論・上肢の連結について	中本	48	上肢の筋について	中本
34	上肢の連結についてまとめ	中本	49	上肢の筋について	中本
35	関節靭帯各論・下肢帯の連結について	中本	50	下肢の筋について	中本
36	関節靭帯各論・下肢帯の連結について	中本	51	下肢の筋について	中本
37	関節靭帯各論・下肢帯の連結について	中本	52	下肢の筋について	中本
38	関節靭帯各論・下肢帯の連結について	中本	53	総括	中本
39	下肢帯の連結についてまとめ	中本			
40	関節靭帯各論・自由下肢骨の連結について	中本			
41	関節靭帯各論・自由下肢骨の連結について	中本			
42	筋学総論について	中本			
43	筋学総論について	中本			
44	頭部・体幹の筋について	中本			
45	頭部・体幹の筋について	中本			

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	講義には必ず出席し、復習を行うこと。
履修条件	必須科目であり必ず出席すること。私語を慎み真摯な受講態度を望む。

教科書	A：標準理学療法学・作業療法学　専門分野　解剖学　B：生理学 C：基礎運動学　第6版　補訂 D：プロメテウス　解剖学コアアトラス
参考書	必要時、授業にて紹介する。

科目名	解剖生理学２			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	早井　あかね（長崎リハビリテーション学院　専任講師）　　（実務経験*：有）						
科目担当者	早井　あかね						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	5	時間数	75

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	・身体機能における神経系の構造や働きを学習していきます。特に、神経系の成り立ちの中で「中枢神経系」と「末梢神経系」を区別して理解していきましょう。 ・循環器系の解剖や働きを理解しましょう。
授業の到達目標	・神経系の解剖・働きについて理解し、各論である神経内科学の基礎をつくる。 ・心臓･血管･血液などの循環器系の解剖・働きについて説明ができる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	神経系総論	早井	20	特殊感覚の神経路	早井
2	神経系総論	早井	21	反射のしくみ	早井
3	中枢神経系（脊髄）	早井	22	脳波	早井
4	中枢神経系（延髄）	早井	23	末梢神経系（まとめ）	早井
5	中枢神経系（橋・中脳・網様体）	早井	24	循環器系（心臓の解剖）	早井
6	中枢神経系（小脳）	早井	25	循環器系（心臓の解剖）	早井
7	中枢神経系（間脳）	早井	26	循環器系（心臓のはたらき）	早井
8	中枢神経系（大脳）	早井	27	循環器系（心臓のはたらき）	早井
9	中枢神経系（大脳）	早井	28	循環器系（動脈）	早井
10	中枢神経系（上行神経路）	早井	29	循環器系（動脈）	早井
11	中枢神経系（下行神経路）	早井	30	循環器系（静脈）	早井
12	中枢神経系（神経路の確認）	早井	31	循環器系（胎生循環）	早井
13	中枢神経系（まとめ）	早井	32	循環器系（リンパ系）	早井
14	末梢神経系（総論）	早井	33	循環器系（リンパ系）	
15	末梢神経系（脊髄神経）	早井	34	循環器系まとめ	
16	末梢神経系（脊髄神経）	早井	35	血液（赤血球）	
17	末梢神経系（脳神経）	早井	36	血液（白血球）	
18	末梢神経系（自律神経）	早井	37	血液（止血機構）	
19	末梢神経系（自律神経）	早井	38	血液まとめ	

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	覚えなければいけない単語がたくさん出てきますが、復習の時間を随時設けますので、1つ1つ理解をしていきましょう。
履修条件	

教科書 参考書	標準理学療法・作業療法　解剖学　第５版（医学書院） 標準理学療法・作業療法　生理学　第５版（医学書院） 病気がみえる⑦脳・神経　第２版　（メディックメディア）

科目名	解剖生理学３			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	氏名　橋口　将大　（　長崎リハビリテーション学院　）（実務経験*：有・無）						
科目担当者	氏名　橋口　将大　（　長崎リハビリテーション学院　）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	3	時間数	60

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	疾患論(内科学・病理学)と結びつけた学習が出来るよう、必要となる基礎知識を学習する。
授業の到達目標	・内臓・感覚器の構造について理解する。 ・内臓・感覚器の機能や働き、作用について理解する。 ・内臓の位置関係を理解し、表出することが出来る。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	コースオリ・総論・内臓学の基礎	橋口	16	内分泌系（ホルモンと作用）	橋口
2	内臓学の基礎	橋口	17	内分泌系（ホルモンと作用）	橋口
3	消化器系（口腔～食道）	橋口	18	感覚器系（外皮）	橋口
4	消化器系（胃）	橋口	19	感覚器系（視覚）	橋口
5	消化器系（小腸）	橋口	20	感覚器系（視覚）	橋口
6	消化器系（大腸）	橋口	21	感覚器系（聴覚）	橋口
7	消化器系（肝臓）	橋口	22	感覚器系（平衡感覚）	橋口
8	消化器系（膵臓）	橋口	23	呼吸とガスの運搬	橋口
9	呼吸器系（鼻～喉頭）	橋口	24	尿の生成と排泄	橋口
10	呼吸器系（気管と気管支）	橋口	25	酸塩基平衡	橋口
11	呼吸器系（肺）	橋口	26	消化と吸収	橋口
12	泌尿器系（腎臓）	橋口	27	消化と吸収	橋口
13	泌尿器系（膀胱）	橋口	28	代謝	橋口
14	泌尿器系（尿管・尿道）	橋口	29	運動生理	橋口
15	内分泌器官	橋口	30	まとめ	橋口

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　■小テスト　□レポート　□その他(　　) (70%)　(　%)　(　%)　(30%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	・前後期それぞれで試験があります。合計した点数が成績となります。 ・それぞれの講義で小テストを実施します。
履修条件	・講義中の私語は慎むこと。 ・無断での遅刻・欠課については１回につき減点５となりますので、ご注意ください。 ・講義中の携帯使用についても同様に減点となりますので注意してください。

教科書	・標準理学療法学・作業療法学　解剖学　医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学　生理学　医学書院
参考書	・イラスト解剖学 ・人体の構造と機能

科目名	解剖学演習			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	解剖生理学の講義で学修した知識を統合・整理し、各器官の形態・構造的な理解を深める。学習テーマごとに演習問題を提示し、解剖学に関する知識の定着を図る。
授業の到達目標	身体を構成する各器官の構造について説明できる。

授業計画			
回　数	内　容		担　当
第1回	オリエンテーション（シラバスの説明）	国試問題の解説づくり①	吉田
第2回	骨の基礎・連結、筋の構造と機能	解説（発表）	吉田
第3回	関節（総論・上肢）	解説（発表）	吉田
第4回	関節（下肢・体幹・頭部など）	解説（発表）	吉田
第5回	確認テスト（1）	国試問題の解説づくり②	吉田
第6回	神経の興奮伝導、中枢神経系	解説（発表）	吉田
第7回	末梢神経	解説（発表）	吉田
第8回	反射と筋活動・感覚	解説（発表）	吉田
第9回	確認テスト（2）	国試問題の解説づくり③	吉田
第10回	呼吸器系	解説（発表）	吉田
第11回	循環器系	解説（発表）	吉田
第12回	消化器系・排泄（腎臓と泌尿器）	解説（発表）	吉田
第13回	代謝・ホルモン	解説（発表）	吉田
第14回	確認テスト（3）	国試問題の解説づくり④	吉田
第15回	総括（授業の振り返り）		吉田

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（50%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　☑小テスト（30%）　☑レポート（20%）　□その他（　）（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。
履修条件	

教科書	PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編（改訂第2版）　南江堂
参考書	イメージできる解剖生理学　メディカ出版

科目名	生理学演習			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）				（実務経験*：有）		
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	解剖生理学の講義で学修した知識を統合・整理し、各器官の機能的な理解を深める。機能学習テーマごとに演習問題を提示し、生理学に関する知識の定着を図る。
授業の到達目標	身体を構成する各器官の機能・役割について説明できる。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	オリエンテーション（シラバスの説明）　国試問題の解説づくり①	吉田
第2回	骨の基礎・連結、筋の構造と機能　解説（発表）	吉田
第3回	関節（総論・上肢）　解説（発表）	吉田
第4回	関節（下肢・体幹・頭部など）　解説（発表）	吉田
第5回	確認テスト（1）　国試問題の解説づくり②	吉田
第6回	神経の興奮伝導　解説（発表）	吉田
第7回	中枢神経系　解説（発表）	吉田
第8回	末梢神経　解説（発表）	吉田
第9回	反射と筋活動・感覚　解説（発表）	吉田
第10回	確認テスト（2）　国試問題の解説づくり③	吉田
第11回	呼吸器系　解説（発表）	吉田
第12回	循環器系　解説（発表）	吉田
第13回	消化器系・排泄（腎臓と泌尿器）　解説（発表）	吉田
第14回	代謝・ホルモン　解説（発表）	吉田
第15回	確認テスト（3）、総括（授業の振り返り）	吉田

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（50%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　☑小テスト（30%）　☑レポート（20%）　□その他（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。
履修条件	

教科書	PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編（改訂第2版）　南江堂
参考書	イメージできる解剖生理学　メディカ出版

科目名	運動生理			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	小原　達朗（元長崎大学教育学部　教授）					＊　実務経験　：　無	
科目担当者	小原　達朗						
学　科	理学療法学科一部			学　年	1		
授業の形態	講義	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	運動生理学の分野から筋・エネルギー・神経について、リハビリテーションと関連づけて習得する。
授業の到達目標	運動が刺激となった場合、運動の障害となった場合の身体機能を説明できること。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	筋収縮のメカニズム 筋線維の種類と特性	小原
第２回	筋力の種類 筋力の増大のメカニズム	小原
第３回	筋収縮様式と筋力トレーニング 筋力とパワー	小原
第４回	筋収縮のエネルギー（ATP の産生） 運動とエネルギー	小原
第５回	ウエイトコントロール 運動と神経機構	小原
第６回	反射運動 随意運動	小原
第７回	自動運動 運動連合野の運動関連機能	小原
第８回	運動機能障害の生理学的視点	小原

成績評価の方法 （評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100 %）　（　　%）　（　　%）　（　　%）　（　　%）　（　　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	
履修条件	

教科書	
参考書	

科目名	人間発達学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	宮崎　正明（長崎大学　名誉教授）　　（実務経験*：無）						
科目担当者	宮崎　正明（長崎大学　名誉教授）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法実践に必要な人間発達に関する知識
授業の到達目標	・理学療法実践に必要な人間発達に関する知識を習得する。 ・定型発達について学び、評価に役立てる。 ・発達理論を知り、人に対する多角的な理解に役立てる

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	発達の意味と発達段階	宮崎
第2回	学習課題と発達の原理	宮崎
第3回	発達に影響する条件	宮崎
第4回	身体的発達の特徴（発達加速現象、運動機能）	宮崎
第5回	社会的発達の特徴（社会的自立、対人関係）	宮崎
第6回	情緒的発達の特徴（情緒的発達の諸相と要因）	宮崎
第7回	認知能力の特徴（学習、認知、記憶、思考、創造性）	宮崎
第8回	認知能力の特徴（思考、創造性）	宮崎
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　100%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	
履修条件	

教科書	生涯人間発達学（三輪書店、上田礼子著）、やさしくかたる子どもの心理（北大路書房、宮崎正明編著）
参考書	

科目名	運動学			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	大平　真祐子（実務経験*：有）						
科目担当者	大平　真祐子						
学　科	理学療法学科（一部）					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	人間の身体運動を理解するために必要な力学的知識を学習し、基本的な姿勢および歩行動作について知る。
授業の到達目標	1. 生体力学の基礎を理解する（モーメントやてこなど） 2. 姿勢についての理解ができる（重心や筋活動など） 3. 歩行についての理解ができる（正常歩行や異常歩行、床反力や筋活動など）

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	生体力学の基礎（力・モーメント・てこ・滑車）	大平
第2回	生体力学の基礎（力・モーメント・てこ・滑車）	〃
第3回	姿勢（重心・重心線・立位姿勢の安定性）	〃
第4回	姿勢（重心・重心線・立位姿勢の安定性）	〃
第5回	姿勢（筋活動・姿勢戦略・立位姿勢の異常）	〃
第6回	姿勢（筋活動・姿勢戦略・立位姿勢の異常）	〃
第7回	歩行と走行（歩行周期・重心移動）	〃
第8回	歩行と走行（歩行周期・重心移動）	〃
第9回	歩行と走行（床反力・筋活動・関節モーメント）	〃
第10回	歩行と走行（床反力・筋活動・関節モーメント）	〃
第11回	歩行と走行（小児の歩行・高齢者の歩行・異常歩行）	〃
第12回	走行と走行（小児の歩行・高齢者の歩行・異常歩行）	〃
第13回	運動学習	〃
第14回	運動学習	〃
第15回	まとめ	〃

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他（　　） （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	理学療法士にとって基本的な姿勢や歩行動作を理解することは、治療を行っていく上で重要となります。力学的知識と合わせて理解しましょう。
履修条件	必須科目であるため、必ず出席すること

教科書	医歯薬出版株式会社　基礎運動学　第6版　補訂 中山書店　レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト　運動学 医学書院　観察による歩行分析
参考書	必要時、講義にて紹介する

科目名	運動学実習			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	福田　健一（長崎リハビリテーション学院　専任講師）（実務経験*：有）						
科目担当者	福田　健一（長崎リハビリテーション学院　専任講師）						
学　科	理学療法学科（一部）					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義・演習	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	人間の身体運動に関する基本的な知識を学ぶ。
授業の到達目標	1. 身体運動に関する基本的な用語について理解する。 2. 身体運動に関わるさまざまな法則について理解する。 3. 運動器の構造と機能を理解する。 4. 姿勢、歩行について理解する。

授業計画

回数	内　容	頁	担当	回数	内　容	頁	担当
1	関節の構造と機能	P12	福田	16	手関節・手指の運動学②	P43	福田
2	骨格筋の機能と構造	P15	〃	17	脊柱・体幹の運動学	P83	〃
3	筋収縮の性質と様態	P18	〃	18	脊柱・体幹の運動学（頸部）	P86	〃
4	股関節の運動学①	P55	〃	19	脊柱・体幹の運動学（胸部）	P92	〃
5	股関節の運動学②	P55	〃	20	脊柱・体幹の運動学（腰部）	P95	〃
6	膝関節の運動学①	P63	〃	21	顔面と頭部の運動学	P101	〃
7	膝関節の運動学②	P63	〃	22	まとめ		〃
8	足関節・足部の運動学①	P73	〃	23	まとめ		〃
9	足関節・足部の運動学②	P73	〃	24			
10	運動連鎖		〃	25			
11	肩複合体の運動学①	P21	〃	26			
12	肩複合体の運動学②	P21	〃	27			
13	肘関節・前腕の運動学①	P33	〃	28			
14	肘関節・前腕の運動学②	P33	〃	29			
15	手関節・手指の運動学①	P43	〃	30			

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	• 講義→ふり返りテストの流れで進めます。 • 演習問題にはグループで取り組みますので、協力し合って理解を深めてください。 • 配布資料は各自ファイリングし、活用してください。
履修条件	クラスメートの学習の妨げになるような行為は慎んでください。

教科書	15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト　運動学 基礎運動学
参考書	解剖学 生理学

科目名	医学概論			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	松屋　福蔵（所属　長崎医療センター 臨床検査科 医師 ）　（実務経験*：無）						
科目担当者	松屋　福蔵						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	・将来、医療従事者として医療に従事する中で、問題を見つけ、解決策を模索する姿勢を身につける（医学を哲学する姿勢）。あふれる情報の中、混乱することなく的確に情報を収集、整理、活用する習慣を身につける。各授業は前半を基本事項、後半を専門基礎分野を組み合わせて進めていく予定です。（概略は下記）
授業の到達目標	・教科書（医学概論）を理解できる。・新型コロナ感染蔓延も題材に医療全般への理解を体験的に深め、貴重な経験とする。　・種々の医学用語、基礎的な解剖生理学を概略、理解できる。　・代表的な病態、疾患について自学できる基礎を作る。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	医学概論の総論　授業の進め方　基本事項（第１章～３章）	松屋
第２回	基本事項（第１２章）　主に感染症関連を中心に	〃
第３回	基本事項（第７章～８章）	〃
第４回	基本事項（第９章～１３章）	〃
第５回	専門基礎分野（第４章）	〃
第６回	専門基礎分野（第５章）	〃
第７回	専門基礎分野（第６章）	〃
第８回	講義のまとめと試験について	〃
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	・教科書を中心に頭の中を整理する。　・新聞、ＴＶなどからの正確な情報収集。 ・動画などを有効に利用し、要点だけでもノートにまとめておく。
履修条件	やる気と健康管理　（疲れたら休みましょう）（家族や友人と共にコロナ撲滅に協力を）

教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト「医学概論　改訂７版」　中外医学社
参考書	Webサイトの利用：玉塾　出直し看護塾　理学療法士国家試験対策ｼﾘｰｽﾞ　など コロナ関係：新聞、NHK、小説「ペスト」アルベール・カミュ作など

科目名	病理学概論			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	熊谷　謙治（所属　川棚医療センター 整形外科医 ）（実務経験*：無）						
科目担当者	熊谷　謙治						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	病理学概論
授業の到達目標	国家試験レベルへの到達

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	総論	熊谷
第2回	病因論	〃
第3回	病理学的変化（細胞障害・代謝障害）	〃
第4回	病理学的変化（炎症・修復・再生・線維化）	〃
第5回	病理学的変化（変性疾患）	〃
第6回	病理学的変化（腫瘍）	〃
第7回	病理学的変化（循環器疾患・骨関節疾患）	〃
第8回	感染・消毒	〃

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	
履修条件	

教科書	「図解 ワンポイント病理学」（岡田英吉、サイオ出版）
参考書	「標準病理学」,

科目名	整形外科学			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	熊谷　謙治（所属　川棚医療センター 整形外科医師 ）					（実務経験*：無）	
科目担当者	熊谷　謙治						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	整形外科学一般
授業の到達目標	整形外科学 国家試験レベル到達

授業計画		
回 数	内　容	担 当
第1回	総論　歴史　基礎	熊谷
第2回	診断学	〃
第3回	治療総論　外傷学総論	〃
第4回	外傷学各論　上肢　装具(義肢)	〃
第5回	外傷学各論　下肢	〃
第6回	〃	〃
第7回	下肢外傷	〃
第8回	脊椎・脊髄の損傷	〃
第9回	上肢の疾患	〃
第10回	下肢の疾患	〃
第11回	脊髄疾患	〃
第12回	骨端症	〃
第13回	骨・関節の感染症	〃
第14回	関節リウマチと類縁疾患	〃
第15回	問題演習（まとめ）	〃

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　☐実技試験　☐実習評価　☐小テスト　☐レポート　☐その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	
履修条件	

教科書	標準整形外科
参考書	

科目名	神経内科学			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	河合　正行（元長崎リハビリテーション学院　専任講師）　（実務経験*：有）						
科目担当者	河合　正行						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	リハビリテーション専門職として必要な神経内科学の概念と基礎知識をグループで学習する。決められた範囲について自分たちで調べて分かりやすく講義する。他の学生にどう分かりやすく伝えられるか、1コマ1時間程度に上手にまとめる。
授業の到達目標	1)医学用語の意味を理解し、正しく記載でき適切に使用できる 2)診察所見や検査所見について、正常と異常を区別できる 3)主要な神経内科疾患や外傷で、その病態・症状・所見・治療を理解する 4)神経内科学で学んだ知識を、他の科目と関連づけて理解する 5)国家試験における神経内科分野の問題が解ける

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	総論：中枢神経系の解剖と機能(14－31)	河合
第2回	総論：神経学的診断と評価(35－50)	〃
第3回	総論：神経学的検査法(51－67)	〃
第4回	神経症候学：意識障害・脳死・植物状態・頭痛・めまい(71－78)	〃
第5回	神経症候学：運動麻痺・錐体路徴候・不随意運動・運動失調(79－98)	〃
第6回	感覚障害・高次脳機能障害・失語症(99－119)	〃
第7回	高次脳機能障害・失認・失行・記憶障害(120－142)	〃
第8回	注意障害・遂行機能障害・構音障害・嚥下障害・脳外科領域(143－169)	〃
第9回	神経疾患各論（脳血管障害）(173－203)	〃
第10回	各論（認知症・脳腫瘍・外傷性脳損傷）(204－237)	〃
第11回	各論（脊髄疾患・変性疾患・脱髄疾患）(238－261)	〃
第12回	各論（錐体外路の変性疾患・末梢神経障害・てんかん）(262－287)	〃
第13回	各論（筋疾患・感染性疾患・中毒性疾患・小児疾患・廃用）(288－350)	〃
第14回	神経内科学のまとめ(スライド講義)	〃
第15回	臨床筋電図のとりかた（ﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ）日本光電	〃
第16回	授業全体のまとめ（スライド講義）	〃

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　％)　(　％)　(　％)　(　％)　(　％)　(　％)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	正しく専門用語や医療用語を使い、できるだけ分かりやすく説明できるよう調べ、分からないことは積極的に質問をするように。
履修条件	定期試験には国試過去問から出題するのでなぜこの回答なのか説明できるように。

教科書	標準理学療法学・作業療法学（神経内科学）第4版編集川平和美　医学書院
参考書	ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）

科目名	内科学			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	井ノ上　修一（所属　長崎リハビリテーション学院　専任講師 ）（実務経験*：有）						
科目担当者	井ノ上　修一 田中　實（たなかみのるクリニック　院長）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	内科学　～症候学、診断学、臓器別各論～
授業の到達目標	1．内科学とリハビリテーション医療についての理解を深める 2．各臓器の働きや、主要な疾患概念を理解し、疾患を持つ患者のリハビリテーションについて学習する

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	内科学総論／診断と治療の実際：医療面接	井ノ上
第2回	診断と治療の実際：診察と臨床検査	〃
第3回	循環器疾患①	田中
第4回	循環器疾患②	〃
第5回	呼吸器疾患	〃
第6回	消化器疾患	〃
第7回	肝胆膵疾患	〃
第8回	血液・造血器疾患	〃
第9回	代謝性疾患	〃
第10回	内分泌疾患	〃
第11回	腎・泌尿器疾患	〃
第12回	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症	〃
第13回	感染症	〃
第14回	症候学	井ノ上
第15回	予備	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	試験はテキストのセルフアセスメント問題、国家試験過去問10年分、講義資料巻末の小テストより出題する。上記は全て講義中に取り扱う。講義内容は変更する場合がある。
履修条件	

教科書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学
参考書	

科目名	精神医学１			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	佐藤　清美（所属　西脇病院　作業療法士）（実務経験*：無）						
科目担当者	佐藤　清美　／　鎌田　秀一（所属　日見中央病院　作業療法士）（実務経験*：無）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	1）臨床症状的視点・社会適応的視点からみた各精神障害の自然史 2）各精神障害の臨床経過・転帰に影響を及ぼす治療法、治療環境、治療促進・阻害要因 3）各精神障害の各臨床ステージにおける症状群から患者の機能障害、活動・活動制限、参加・参加制約などの系統的な評価について概説する。
授業の到達目標	1）各精神障害の精神症状が説明できる。 2）各精神障害の臨床経過が説明できる。 3）各精神障害の治療法が説明できる。 4）各精神障害の社会的転帰が説明できる。 5）臨床実践に必要な法律が説明できる。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第 1/2 回	精神医学の概念と関連領域（精神症状の分類を含む）	鎌田
第 3/4 回	統合失調症　病因、基本症状、臨床経過、治療、臨床経過と転帰	鎌田
第 5 回	気分障害　病因、基本症状、臨床経過	佐藤
第 6 回	気分障害　治療、転帰	佐藤
第 7/8 回	神経症性障害、ストレス関連障害および行動症候群、てんかんに関する病因、基本症状、臨床経過、治療、転帰	鎌田
第 9/10 回	器質性精神障害（認知症を主とし、病因、基本症状、臨床経過　治療、転帰）	鎌田
第 11/12 回	精神作用物質・その他使用による精神および行動の障害　病因、基本症状、臨床経過	佐藤
第 13 回	成人のパーソナリティーおよび行動の障害　基本症状、臨床経過	佐藤
第 14 回	児童・思春期の精神障害　基本症状、臨床経過	佐藤
第 15 回	包括的治療（薬物療法、心理社会的療法など）	佐藤
第 16 回	法律（精神保健福祉法など）	佐藤

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	教科書等で予備知識を持つこと。
履修条件	必修科目である。

教科書	太田保之・上野武治（編集）　：　学生のための精神医学　第３版， 医歯薬出版株式会社，2014，
参考書	必要時、授業で紹介する。

科目名	救急救命医学			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	中原 知之（所属　長崎医療センター 救急救命センター 医師 ）（実務経験*：無）						
科目担当者	中原 知之　他　（長崎医療センター救急救命センター医師） 橋口　将大（長崎リハビリテーション学院専任講師）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	救急処置と看護を学ぶ
授業の到達目標	主要病態に対する救急処置と看護に関する知識を習得する

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	救急医療体制	調整中
第2回	救急患者の特徴	〃
第3回	院内急変時における対応	〃
第4回	在宅急変時における対応	〃
第5回	救急時の看護技術①	〃
第6回	救急時の看護技術②	〃
第7回	主要病態に対する救急処置と看護 ①	中原
第8回	主要病態に対する救急処置と看護 ②	中原
第9回	普通救命講習Ⅱ	橋口
第10回	普通救命講習Ⅱ	橋口

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　□レポート（　%）　□その他（　）（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	
履修条件	

教科書	救急看護学
参考書	

科目名	リハビリテーション概論１			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	井ノ上修一・桑原由喜・田中美紀・橋口将太（長崎リハビリテーション学院） 柿田 京子（元介護老人保健施設うぐいすの丘 副施設長 理学療法士） 村木 敏子（大村市長寿介護課　作業療法士）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	・リハビリテーション専門職の学びに必要な共通かつ基本的な概念について学習する。 ・リハビリテーションチームにおけるそれぞれの専門職の役割を学習する。 ・歴史からリハビリテーション専門職を取り巻く現状を紹介し、今後、学習すべき内容の動機付けを図る。
授業の到達目標	・国家試験で問われる用語や内容については最低限理解する。 ・リハビリテーション業務における「評価」の重要性を理解する。

授業計画

回数	内　容	担当
1	リハビリテーションとは？	井ノ上
2	障害学①　病気と障害　障害の種類　一次障害と二次障害	井ノ上
3	障害学②　国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）	井ノ上
4	リハビリテーションの種類・分類	井ノ上
5	リハビリテーションの歴史	井ノ上
6	リハビリテーションを支える制度	井ノ上
7	リハビリテーションに関する重要キーワード①	井ノ上
8	リハビリテーションに関する重要キーワード②	井ノ上
9	理学療法ならびに理学療法士について	橋 口
10	言語聴覚療法ならびに言語聴覚士について	田 中
11	作業療法ならびに作業療法士について	桑 原
12	地域包括ケアシステム 総論①	柿 田
13	地域包括ケアシステム 総論②	柿 田
14	地域包括ケアシステム 各論①	村 木
15	地域包括ケアシステム 各論②	村 木

成績評価の方法 （評価の基準）	□定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　100%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	先入観にとらわれず、思考を柔軟にして授業に臨んでください。
履修条件	

教科書	随時、資料を配布します。
参考書	

科目名	理学療法学概論			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	橋口　将大（長崎リハビリテーション学院）（実務経験*：有）						
科目担当者	橋口　将大（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科一部			学　年	1	授業の形態	講義
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法について理解を深める講義である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士の法的背景等を学び、基本的な理学療法の流れについて学修する。
授業の到達目標	・理学療法士の法的背景や、臨床における専門性と役割について説明できる。 ・理学療法過程と臨床思考過程を説明できる。 ・代表的疾患の病態の特徴を簡単に説明できる。またそれらに対する標準的な理学療法評価および治療が説明でき、簡単な手技を実施できる。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法の役割	橋口
第2回	理学療法士の法律、関連法規	橋口
第3回	理学療法の意義と役割、理学療法の方法	橋口
第4回	系統別理学療法学の理解～運動器疾患～	橋口
第5回	系統別理学療法学の理解～脳血管障害～	橋口
第6回	系統別理学療法学の理解～神経筋疾患（パーキンソン病）～	橋口
第7回	系統別理学療法学の理解～内部障害～	橋口
第8回	グループ発表	橋口
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験（70%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　■小テスト（30%）　□レポート（　%）　□グループ発表（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	理学療法の基礎となる学問です。普段からしっかりと復習を行いましょう。
履修条件	必修の講義ですので、欠席等無いよう体調管理には十分気をつけましょう。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ　理学療法概論テキスト　改訂第3版

科目名	理学療法セミナー1			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	中本　貴大（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）（実務経験*：有）						
科目担当者	中本　貴大・他						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義・演習	単位数	4	時間数	60

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	専門学校で学習するべきこと、行動するべきことを自ら実践できるよう、グループワーク等を通して理解を深める。
授業の到達目標	1. 3年間の行動計画を立て、実践していく。 2. 先輩やクラス内での意見交換を行い、自身の目的を明確にする。 3. 基礎科目の予習・復習を通して理解を深める。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	理学療法士とは	中本	16	演習④	〃
2	グループワーク（発表）	〃	17	演習⑤	〃
3	理学療法士になるために	〃	18	演習⑥	〃
4	実技（体験）	〃	19	演習⑦	〃
5	実技（体験）	〃	20	演習⑧	〃
6	OSCE 見学・体験	〃	21	演習⑧	〃
7	OSCE 見学・体験	〃	22	演習⑨	〃
8	実技（体験）	〃	23	演習⑩	〃
9	実技（体験）	〃	24	演習⑪	〃
10	振り返り	〃	25	演習⑫	〃
11	グループワーク	〃	26	演習⑬	〃
12	グループワーク	〃	27	演習⑭	〃
13	演習①	〃	28	演習⑮	〃
14	演習②	〃	29	演習⑯	〃
15	演習③	〃	30	まとめ	〃

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験（　%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　■レポート（100%）　□その他（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	準備するものは事前に連絡しますが、ノートパソコンなどは早めに準備を整えてください。（レポート作成等で使用するため）
履修条件	必修科目であるため必ず出席すること

教科書	基礎運動学（医学書院）PT・OT基礎固めヒント式トレーニング基礎医学編(改訂第2版) 解剖生理学（医学書院）
参考書	必要時、講義内で紹介する

科目名	理学療法評価学 1			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	小谷泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）（実務経験：有）						
科目担当者	小谷泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必須	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要（主題）	理学療法における基礎的な検査・測定から評価、治療の流れについて理解し、理学療法評価および治療に必要となる基本的な検査・測定方法の意義や手技を学び習得する。
授業の到達目標	理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 理学療法における基本的な検査・測定の目的や意義を述べることができる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第 1 回	総論	小谷
第 2 回	形態測定	小谷
第 3 回	関節可動域測定	小谷
第 4 回	筋力検査	小谷
第 5 回	感覚検査	小谷
第 6 回	反射検査	小谷
第 7 回	協調性検査	小谷
第 8 回	ADL・QOL	小谷

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	検査・測定に必要な解剖、運動、生理学について復習しておく。
履修条件	実技中心の授業の為、動きやすい服装が望ましい。

教科書	理学療法評価学 第 6 版補訂版（金原出版）
参考書	

科目名	理学療法評価学実習 1			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	小谷泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師）（実務経験*：有）						
科目担当者	小谷泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必須	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	「理学療法評価学1」で学んだ基本的な検査測定手技に関する実技を行う。各種検査法の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。
授業の到達目標	各種検査法の測定法・注意点について説明できる。各種検査法を学生同士で正確に実施することができる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	オリエンテーション	小谷	16	反射検査・筋緊張検査(1)	小谷
2	形態測定(1)	小谷	17	反射検査・筋緊張検査(2)	小谷
3	形態測定(2)	小谷	18	反射検査・筋緊張検査(3)	小谷
4	形態測定(3)	小谷	19	協調性検査(1)	小谷
5	関節可動域測定(1)	小谷	20	協調性検査(2)	小谷
6	関節可動域測定(2)	小谷	21	バイタルサインの検査	小谷
7	関節可動域測定(3)	小谷	22	バイタルサインの検査	小谷
8	関節可動域測定(4)	小谷	23	まとめ	小谷
9	筋力検査(1)	小谷			
10	筋力検査(2)	小谷			
11	筋力検査(3)	小谷			
12	筋力検査(4)	小谷			
13	感覚検査(1)	小谷			
14	感覚検査(2)	小谷			
15	感覚検査(3)	小谷			

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験（　%）　☑実技試験（100%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　□レポート（　%）　□その他（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	検査・測定に必要な解剖、運動、生理学について復習しておく。
履修条件	実技中心の授業の為、動きやすい服装が望ましい。

教科書	理学療法評価学 第6版補訂版（金原出版）
参考書	

科目名	運動療法学			開講年度	2022年	期	後期
科目担当責任者	加治俊文(長崎リハビリテーション学院　理学療法学科)　　(実務経験：有)						
科目担当者	加治俊文(長崎リハビリテーション学院　理学療法学科)						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 (主題)	運動療法の基礎となる知識・技術を習得し、運動療法を科学として考えることを習得する。
授業の到達目標	1．運動療法に関する基礎知識を理解できる。 2．一般的な運動療法を理解できる。 (関節可動域、筋力増強、持久力、協調性、神経筋再教育)

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	運動療法とは、運動療法の歴史・概念（定義）・位置付け	加治
第2回	運動療法の基礎Ⅰ（結合組織・関節・筋・神経の構造と機能）	加治
第3回	運動療法の基礎Ⅱ（病態生理・解剖など）基本的運動	加治
第4回	運動療法機器について、関節可動域運動について	加治
第5回	筋力維持増強運動について、持久力増強運動について	加治
第6回	全身調整運動・リラクセーション運動について	加治
第7回	協調性の改善について	加治
第8回	神経筋再教育・神経生理学的アプローチについて	加治

成績評価の方法 (評価の基準)	■定期試験　□実技試験　□実習評価　■小テスト　□レポート　□その他(　　) (70％)　(　％)　(　％)　(30％)　(　％)　(　％)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	運動療法Ⅰ　第2版，神陵文庫
参考書	

科目名	運動療法学実習			開講年度	2022年	期	後期
科目担当責任者	加治俊文(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)　　(実務経験：有)						
科目担当者	加治俊文(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 (主題)	運動療法の基礎となる知識を習得し、運動療法を実施できることを習得する
授業の到達目標	1．運動療法機器に関する基礎知識と使用方法を理解し実施できる。 2．一般的な運動療法を理解し実施できる。 (関節可動域、筋力増強、バランス、ストレッチ等)

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	運動療法機器①の実習	加治	16	ストレッチ②の実習	加治
2	運動療法機器②の実習	加治	17	ストレッチ③の実習	加治
3	関節可動域運動①の実習	加治	18	ストレッチ④の実習	加治
4	関節可動域運動②の実習	加治	19	各種運動療法の総復習①	加治
5	関節可動域運動③の実習	加治	20	各種運動療法の総復習②	加治
6	関節可動域運動査④の実習	加治	21	各種運動療法の総復習③	加治
7	筋力維持増強運動①の実習	加治	22	各種運動療法の総復習④	加治
8	筋力維持増強運動②の実習	加治	23	各種運動療法の総復習⑤	加治
9	筋力維持増強運動③の実習	加治	24		
10	筋力維持増強運動④の実習	加治	25		
11	バランス運動①の実習	加治	26		
12	バランス運動②の実習	加治	27		
13	バランス運動③の実習	加治	28		
14	バランス運動④の実習	加治	29		
15	ストレッチ①の実習	加治	30		

成績評価の方法 (評価の基準)	□定期試験　■実技試験　□実習評価　□小テスト　■レポート　□その他(　　) (　　%)　(70%)　(　　%)　(　　%)　(30%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	実技の内容はしっかりと復習(練習)して下さい 運動療法学と関連していますので並行して行っていきます。 講義中の携帯電話の使用は厳禁といします。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	運動療法Ⅰ　第2版，神陵文庫
参考書	

科目名	物理療法学Ⅰ			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	中本　貴大(長崎リハビリテーション学院　専任講師)(実務経験：有)						
科目担当者	中本　貴大(長崎リハビリテーション学院　専任講師)						
学　科	理学療法学科一部			学　年	1年	授業の形態	講義・実技
曜日時限	木3・4限・他	必修/選択	必須	単位数	1	時間数	15

授業の概要 (主題)	物理療法に対する基本的な理学療法について理解する。
授業の到達目標	1.物理療法の定義を理解できる。 2.物理療法の各特徴を理解できる。 3.物理療法の手順を理解できる。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	物理療法総論について	中本
第2回	温熱療法について	中本
第3回	温熱療法について	中本
第4回	寒冷療法について	中本
第5回	光線療法について	中本
第6回	電気刺激療法について	中本
第7回	牽引療法について	中本
第8回	物理療法についての総括	中本

成績評価の方法 (評価の基準)	□定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	実技形式があります。動きやすい服装にしてください。
履修条件	積極的に取り組み、私語は慎み真摯な態度を望む。

教科書	理学療法学テキストⅨ　物理療法　第2版(神陵文庫)
参考書	必要に応じて紹介する。

科目名	日常生活活動学	開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	早井　あかね（長崎リハビリテーション学院　専任講師）　（実務経験：有）				
科目担当者	早井　あかね				
学　科	理学療法学科一部		学　年	1	
授業の形態	講義	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	15

授業の概要（主題）	日常生活活動動作（ＡＤＬ）の概念を理解する。 また臨床実習時に必要な日常生活活動の評価の基礎、移動補助具などの適切な使用方法などを学習する。
授業の到達目標	ＡＤＬの意味、ＩＣＦ・ＩＣＩＤＨの違い、杖や車いすなどの名称等理解することができる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	ＡＤＬの概念	早井
第２回	ＩＣＦ、ＩＣＩＤＨ	〃
第３回	日常生活の評価	〃
第４回	〃	〃
第５回	移動補助具（杖、白杖、松葉杖）	〃
第６回	〃	〃
第７回	移動補助具（車いす）	〃
第８回	まとめ	〃

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	今後、２年次の日常生活活動学実習や臨床実習につながる科目となりますので、言葉の意味、評価法の種類、移動補助具の名称などを理解してください。
履修条件	必須科目であるので、必ず出席すること。

教科書	理学療法学テキスト　日常生活活動学（MEDICAL　VIEW、2020年）
参考書	日常生活活動（ＡＤＬ）第２版（千住秀明監修、神陵文庫、2015年） 必要に応じて、資料を配布します

科目名	臨床実習 1			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	中尾夕子（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：☑有・□無）						
科目担当者	理学療法学科専任教員						
学　科	理学療法学科一部					学　年	1
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	1	時間数	40

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	対象者や施設・医療スタッフに対する適切な態度や、診療チームの一員としての理学療法士の役割について学ぶ
授業の到達目標	1)　医療人として必要な基本的態度を身につける 2)　理学療法士の役割と責任について理解する 3)　理学療法士を目指すものとしての自覚を高める

授業計画

回　数	内　容	担　当
10月17日 ～10月21日 （5日間）	学内における事前学習、実習施設における臨床実習、学内における事後学習を通して学習する。 〈事前学習〉 感染症対策等医療安全管理 個人情報保護 実習前 OSCE（客観的臨床能力試験） 〈臨床実習〉 実習施設において実習指導者の指導・監督の下、診療チームの一員としての適切な態度や役割について学ぶ 〈事後学習〉 実習の振り返り 実習後 OSCE（客観的臨床能力試験）	専任教員 実習指導者

成績評価の方法 （評価の基準）	☑臨床実習前評価 • 実技試験 • 筆記試験 （ 20 %）	☑臨床実習地評価 （ 60 %）	☑臨床実習後評価 • 実技試験 • 筆記試験 （ 20 %）
	臨床実習前後の評価および臨床実習地評価の結果を踏まえて学内会議において総合的に評価する。		
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	学内での実習オリエンテーションで事前学習を行い、医療従事者としての自覚をもち、実習に臨んでください。		
履修条件			

教科書	臨床実習で必要となるすべてのテキスト
参考書	

科目名	カウンセリング論			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	城下　未来（長崎リハビリテーション学院　言語療法学科　専任講師）（実務経験*：無）						
科目担当者	城下　未来						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	カウンセリングに関する基本的な理論や技法について学ぶとともに、リハビリテーションにおけるカウンセリングの有用性を理解し、リハ専門職として援助場面におけるカウンセリングの活用について考える機会とする。
授業の到達目標	1．カウンセリングの基本理論や技法について説明できる 2．リハビリテーション場面でのカウンセリングの有用性について理解する 3．カウンセリングの理論や技法について援助場面で応用できる力を養う

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	カウンセリング概説	城下
第2回	カウンセリングの理論：精神分析的心理療法	城下
第3回	カウンセリングの理論：来談者中心療法	城下
第4回	カウンセリングの理論：行動療法	城下
第5回	カウンセリングの理論：その他（家族療法、集団療法　など）	城下
第6回	カウンセリングの理論：その他（箱庭療法、芸術療法　など）	城下
第7回	カウンセリングの技法①	城下
第8回	カウンセリングの技法②	城下

成績評価の方法	☑定期試験	□実技試験	□実習評価	□小テスト	□レポート	☑その他（演習等への取り組み）
（評価の基準）	（80％）	（　％）	（　％）	（　％）	（　％）	（20％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	座学だけではなく可能な範囲で演習なども取り入れながら、体験的な学びの機会となるようにしていきたいと思っています。積極的に取り組んでくれることを望みます。					
履修条件						

教科書	
参考書	適宜紹介する

科目名	保健体育２			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	山下　克己（所属　向陽学園　向陽高校）　（実務経験*：無）						
科目担当者	山下　克己						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクレーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。
授業の到達目標	1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第１回	オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習	山下
第２回	ゲーム・ミーティング	山下
第３回	ルール確認・グループ分け・練習	山下
第４回	ゲーム・ミーティング	山下
第５回	ルール確認・グループ分け・練習	山下
第６回	ゲーム・ミーティング	山下
第７回	ルール確認・グループ分け・練習	山下
第８回	ゲーム・ミーティング	山下

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験	■実技試験	□実習評価	□小テスト	■レポート	■その他(出席・態度)
	（　　%）	（ 10 %）	（　　%）	（　　%）	（ 10 %）	（ 80 %）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	実技試験１割、レポート１割、出席６割、授業態度２割で評価します。 出席での評価の割合が高いので、休まないこと。					
履修条件						

教科書	
参考書	

科目名	外国語 2			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	Garrott, Jackson Maxfield （ギャロット・ジャクソン M.）						
科目担当者	Garrott, Jackson Maxfield （ギャロット・ジャクソン M.）						
学 科	理学療法学科一部			学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

授業の概要 （主題）	Teaching medical terminology through participation in practical medical settings, using memorization and performance.
授業の到達目標	Language is useful only when used. The aim is for the students to be able to use English in their eventual work settings, with patients and staff.

授業計画		
回 数	内 容	担 当
第 1 回	Communication in an Orthopedic Surgery setting	
第 2 回	Continuation of orthopedic communication	
第 3 回	Continuation of orthopedic communication	
第 4 回	Continuation of orthopedic communication	
第 5 回	Stroke issues	
第 6 回	Specifically Physical Therapy issues	
第 7 回	Cancer related issues	
第 8 回	Review and examination preparation	

成績評価の方法 （評価の基準）	X 定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他( ) (100%) (%) (%) (%) (%) (%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	Students are expected to make notes of new vocabulary and sentence patterns with each class, not putting things off until just before the examination.
履修条件	Each student is required to use English in each class, performing dialogs, etc.

教科書	*3rd Edition Practical English Conversation for Nurses* from Igaku Shoin
参考書	Lists of applicable sentence patterns and vocabulary are distributed for final review, but not before.

科目名	ホスピタリティー論２			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	田中 美吉子（所属　ヒューマン・ナガサキ ）					（実務経験*：無）	
科目担当者	田中 美吉子						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	・実習に備えた医療従事者としての職場のマナーを実践的に修練する ・現場に適応できるコミュニケーション力と感情コントロールのトレーニング法を教授する。 ・現場に適応できるコミュニケーション力と感情コントロールのトレーニング法を教授する。
授業の到達目標	①実習に備え、病院内や訪問先での礼儀作法とマナーを身につける。 ②相手や状況に応じたコミュニケーション力と実践力を養う。

授業計画		
回 数	内　容	担 当
第１回	職場のルール・医療現場におけるマナー	田中
第２回	好印象を与える挨拶、指示命令の受け方、報連相（動画撮影予定）	田中
第３回	訪問時の立居振舞い、お茶のいただき方など	田中
第４回	電話応対ロールプレイ、実習先への礼状の書き方	田中
第５回	実習の振り返りと医療現場におけるホスピタリティについて	田中
第６回	事例に応じた患者さんとのコミュニケーション	田中
第７回	タイプ別コミュニケーションとアサーション演習	田中
第８回	アンガーマネジメント（感情トレーニング）	田中

成績評価の方法（評価の基準）	☐定期試験　☐実技試験　☑実習評価　☑小テスト　☐レポート　☑その他(学習態度) （　%）　（　%）　（ 30 %）　（ 30 %）　（　%）　（ 40 %）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	授業への取組姿勢、態度、身だしなみ、他者との関わり方すべてを評価対象とします。 接遇マナーは習慣です。授業で学んだことを実生活でも常に意識しましょう。 リラックスして受講なさってください。
履修条件	

教科書	配布資料
参考書	

科目名	疼痛の生理			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	介田 圭（所属　長崎大学 大学院 医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野 保存修復学部門 助教） （実務経験*：無）						
科目担当者	介田 圭						
学　科	理学療法学科一部			学　年	2	授業の形態	講義
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	リハビリテーション専門職として必要な「痛み」の概念と基礎知識を学習する。
授業の到達目標	1．痛みの系統発生・歴史について理解できる。 2．臨床における様々な痛みとその測定法について理解できる。 3．痛みのメカニズムについて理解できる。 4．鎮痛薬について理解できる。

授業計画

回 数	内　容	担 当
第1回	痛みの系統発生・研究の歴史	介田
第2回	東洋における痛みの歴史	介田
第3回	臨床における様々な痛み	介田
第4回	臨床における痛みの測定法	介田
第5回	痛覚伝達機構	介田
第6回	痛みの中枢伝達機構	介田
第7回	神経障害性疼痛・内因性鎮痛機構	介田
第8回	鎮痛薬	介田
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 （評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　■小テスト　□レポート　□その他(　　) （ 95％）　（　　％）　（　　％）　（ 5％）　（　　％）　（　　％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	講義後は十分な復習を。
履修条件	授業には連続性があるので、できるだけ出席してください。

教科書	はじめての痛み学　おうふう　２０１１
参考書	必要時、授業にて紹介

科目名	生理学実習			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	介田 圭（所属　長崎大学 大学院 医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野 保存修復学部門 助教 ） （実務経験*：無）						
科目担当者	介田 圭						
学　科	理学療法学科一部			学　年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	リハビリテーション専門職として必要な生きた組織や器官を扱う機会が非常に少ないので、生理学実習を体験することで、教科書を読むことによって得た知識を実験で実際体験することにより、生きた知識として身につける。
授業の到達目標	1. 感覚点の分布やその温度依存性など特性を理解できる 2. ウェーバー･フェヒナーの法則とスティーブンスの法則を通してわれわれの感覚の生理学的性質を理解できる 3. 感覚器のメカニズムを理解できる 4. 骨格筋のはたらきを理解できる 5. 臨床検査器具を使用し、その使用法、特性を理解できる

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	皮膚感覚（触圧点・痛点）	介田	13	温度感覚	介田
2	〃	〃	14	〃	〃
3	皮膚感覚（冷点・温点）	〃	15	舌における味覚の分布	〃
4	〃	〃	16	〃	〃
5	皮膚感覚（２点識別閾）	〃	17	検知閾・認知閾	〃
6	〃	〃	18	〃	〃
7	歯の植立部位の弁別	〃	19	筋電図・随意運動の反応時間・聴覚	〃
8	〃	〃	20	〃	〃
9	視覚生理学	〃	21	除脳ねこ　Video 実習	〃
10	〃	〃	22	〃	〃
11	重量感覚	〃	23	スパイロ・心電図	〃
12	〃	〃	24	〃	〃

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　☑レポート　□その他(　　) （ 50 %）　（　　%）　（　　%）　（　　%）　（ 50 %）　（　　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	実習前に生理学の予習をして、実習にのぞんでください。
履修条件	特にありません

教科書	特にありません
参考書	解剖生理学　実験テキスト　―生理学編―　木本 万里・戸田 一雄 著　おうふう

科目名	運動学演習			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	森　健次郎（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験：有）						
科目担当者	森　健次郎（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科（一部）					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実技	単位数	1	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	運動学、運動学実習で学修した知識を統合・整理し理解を深め、実習を通して学習する。主な内容は、体表からの筋の観察、筋の作用、ストレッチ、歩行分析に関する実習を行う。
授業の到達目標	1. 体表からの筋の観察を行い、実習を通して理解を深める 2. 運動・動作分析について、実習を通して理解を深める

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	上肢帯および上肢―肩甲帯、肩関節―	森
第2回	上肢帯および上肢―肘関節、前腕、手関節、手指―	森
第3回	下肢帯および下肢―股関節―	森
第4回	下肢帯および下肢―膝関節、足関節、足部―	森
第5回	脊柱・体幹	森
第6回	筋力	森
第7回	生体力学	森
第8回	動作分析―寝返り、起き上がり―①	森
第9回	動作分析―寝返り、起き上がり―②	森
第10回	動作分析―立ち上がり―①	森
第11回	動作分析―立ち上がり―②	森
第12回	動作分析―立ち上がり―③	森
第13回	動作分析―歩行―①	森
第14回	動作分析―歩行―②	森
第15回	動作分析―歩行―③	森

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（80%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　☑レポート（20%）　□その他（　）（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	・ 関連科目の基本事項を復習しておくこと。 ・ 第8回以降の「動作分析」は動作解析ソフトを使用し進めていきますので、パソコンの準備をしておいてください。（可能であればWindowsパソコン） ・ 実習、グループワークを通して学習していく。各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。
履修条件	必須科目であるため、必ず出席すること

教科書	医歯薬出版株式会社　基礎運動学　第6版　補訂 医学書院　観察による歩行分析
参考書	必要時、講義にて紹介する

科目名	臨床心理学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	城下　未来（長崎リハビリテーション学院）（実務経験*：無）						
科目担当者	城下　未来						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	臨床心理学の概要について学習し、患者の心理的問題の理解や援助の基礎となる知識を習得する。
授業の到達目標	1．臨床心理学の基礎知識を理解できる。 2．援助を必要とする対象者の心理的問題について理解し、その理解の方法について説明できる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	臨床心理学概説	城下
第2回	パーソナリティ（人格理論）	城下
第3回	異常心理・ストレス、防衛機制	城下
第4回	発達	城下
第5回	心理アセスメント①	城下
第6回	心理アセスメント②	城下
第7回	心理療法①	城下
第8回	心理療法②　・　まとめ	城下
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　☑小テスト　□レポート　□その他（演習・出席） （　80%）　（　　%）　（　　%）　（　20%）　（　　%）　（　　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	内容によっては演習を取り入れながら行いますので、積極的な参加を望みます。
履修条件	

教科書	特に指定なし。毎回授業の際に資料を配布予定。
参考書	必要時に適宜紹介する。

科目名	画像診断学１（中枢）			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	岡　大雅　（所属　長崎医療センター 放射線科 医師 ）　（実務経験*：有・(無)）						
科目担当者	岡　大雅						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	１５

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	CT・MRIの基本を学ぶ
授業の到達目標	CT・MRIの基本的な正常解剖を理解し、病変の初歩的診断ができること。 医療チームの一人としてCTやMRIから患者さんの病態をある程度把握できること。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	CT・MRIの画像の特徴	岡
第２回	CT・MRIの基本的な正常解剖	〃
第３回	疾患の特徴と画像診断（脳血管障害）	〃
第４回	〃　（脳腫瘍）	〃
第５回	〃　（頭部外傷）	〃
第６回	〃　（感染・脱髄疾患）	〃
第７回	〃　（眼窩内病変）	〃
第８回	〃　（脊椎・脊髄病変）	〃

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	画像診断は病気の診断だけでなく、患者さんの病態を把握するためにも非常に重要です。 医療現場での患者さんの状態理解に役立つと思います。
履修条件	

教科書	わかりやすい脳脊髄のMR・CT ／ 診断のポイントと症例集
参考書	

科目名	画像診断学２（骨・関節）			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	木村　和也（所属　諫早記念病院　整形外科　医師 ）（実務経験*：無）						
科目担当者	木村　和也						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	骨軟首部疾患の画像診断（第２版）に沿って講義をすすめる。
授業の到達目標	１．整形外科主要疾患の理解 ２．将来現場で使える画像読解の基礎づくり

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	股関節	木村
第２回	膝関節	〃
第３回	足関節	〃
第４回	肩関節	〃
第５回	肘関節	〃
第６回	手関節	〃
第７回	脊椎	〃
第８回	骨髄	〃

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	骨格標本と画像を比較する
履修条件	

教科書	骨軟部疾患の画像診断　第２版
参考書	

科目名	リハビリテーション概論２			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	橋口　将大（長崎リハビリテーション学院　専任講師）（実務経験*：有）						
科目担当者	橋口　将大、安藤　隆一、桑原　由喜（長崎リハビリテーション学院　専任講師）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	リハビリテーションの概念・理念・定義を理解したうえで、日本における医学的リハビリテーションの展開を各々の視点から学ぶ。他職種の専門性の理解、チーム医療、他職種協業について体験し、学習する。
授業の到達目標	１．リハビリテーションにおける療法士の位置づけや役割を理解できる ２．チームアプローチ、他職種協業について説明できる

授業計画

回　数	内　容	担　当
第１回	文献等を用いてテーマに沿ったグループワークを行う	橋口
第２回	同上	橋口
第３回	同上	橋口
第４回	同上	橋口
第５回	同上	橋口
第６回	同上	橋口
第７回	発表及びディスカッション（3学科合同）	安藤・桑原・橋口
第８回	同上（3学科合同）	安藤・桑原・橋口

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験	□実習評価	☑レポート	☑その他(発表)	☑その他(出席)
	（　　％）	（　　％）	（50　％）	（40　％）	（10　％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	１～６回は図書館にてグループワークで進めます。将来、チーム医療の一員として働くことを考え、積極的な態度と責任ある行動を望みます。				
履修条件	これから専門職を目指すものとしての心構えをしっかり持った受講態度を求めます。また、社会人、医療人を目指すものとして、相応しい取り組みを求めます。				

教科書	必要なものを持参
参考書	

科目名	生活環境学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	高齢者や障害者の住環境を整備するための必要な住宅改修の方法、福祉用具の活用法などについて解説する。また、実際のフィールドワークを通して、環境調査とその評価の流れを理解する。
授業の到達目標	1. 在宅環境の整備・構築という観点から、障害者や高齢者に対する生活支援の具体策を提示できる。 2. 福祉住環境コーディネーター2級を取得する。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	オリエンテーション（シラバスの説明）、福祉住環境コーディネーターとは	吉田
第2回	生活行為別にみた福祉用具の活用（起居・就寝）	吉田
第3回	生活行為別にみた福祉用具の活用（移動）	吉田
第4回	生活行為別にみた福祉用具の活用（排泄、入浴）	吉田
第5回	最近の福祉用具事情について調べる	吉田
第6回	福祉住環境整備の基本技術（段差、床材）	吉田
第7回	福祉住環境整備の基本技術（手すり、建具、スペース）	吉田
第8回	生活行為別　福祉住環境整備の手法（屋外・屋内移動）	吉田
第9回	生活行為別　福祉住環境整備の手法（排泄、入浴）	吉田
第10回	フィールドワーク（学院の環境調査・評価）	吉田
第11回	福祉用具の特性を発表する	吉田
第12回	環境調査の結果を発表する	吉田
第13回	福祉住環境コーディネーター検定試験（2級）の過去問に挑戦する	吉田
第14回	国家試験の過去問に挑戦する	吉田
第15回	総括（授業の振り返り）	吉田

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　☑レポート　□その他(　　) (80%)　(　%)　(　%)　(　%)　(20%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	授業前に、各回の講義テーマに該当する教科書部分を一読しておくこと。 準備学習として、関連科目（日常生活活動学など）の基本事項を復習しておくこと。
履修条件	

教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験　2級公式テキスト　東京商工会議所 その他、補足資料を毎回配布する。
参考書	シンプル理学療法学作業療法学シリーズ　生活環境学テキスト　南江堂

科目名	病態運動学			開講年度	2022	期	後
科目担当責任者	橋口　将大（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	橋口　将大（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法においては、病態の理解とそれに基づく機能障害と運動的制限の評価が治療手段を想起する起源となる。本講義は、一連の理学療法プロセスを背景に、運動学という学問的手段を使って、疾病と運動障害を理解することである。
授業の到達目標	1.運動学および病態運動学における、運動学と運動力学、生体活動の関連性を理解できる。 2.病態が与える姿勢、運動、動作への影響の概略を理解できる。 3.病態運動学の分析対象である機能障害・機能的制限・活動レベルを理解できる。 4.様々な疾患から生じる運動制限の臨床的特長を理解できる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	病態運動学総論	橋口
第2回	股関節の運動障害	橋口
第3回	膝関節の運動障害	橋口
第4回	足関節の運動障害	橋口
第5回	脊柱の運動障害	橋口
第6回	肩関節の運動障害	橋口
第7回	脳卒中の片麻痺、パーキンソン病	橋口
第8回	まとめ	橋口

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　■小テスト　□レポート　□その他(　　) (70%)　(　%)　(　%)　(30%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	復習をしっかりと行うこと。
履修条件	講義中の私語や携帯電話の使用は減点の対象となるため注意して下さい。

教科書	標準理学療法学　専門分野　「病態運動学」　医学書院
参考書	

科目名	文献研究			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）				（実務経験*：有）		
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	情報リテラシー（情報を活用する創造的能力）を高めるために、情報の収集・整理・発信方法について学習する。また実際に研究課題を設定し、文献研究を通じてその課題を解決する能力を養う。
授業の到達目標	1.　文献を偏りなく集め、統合・整理することができる。 2.　文献を批判的に読み解き、設定した研究課題に対する答えを提示することできる。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	オリエンテーション（シラバスの説明）、文献研究の意義について	吉田
第2回	情報リテラシーについて（演習課題①：情報収集と要約）	吉田
第3回	理学療法診療ガイドラインの活用について	吉田
第4回	文献検索の方法と実際（演習課題②：指定課題に関する文献検索と要約）	吉田
第5回	文献の種類とEBM（エビデンス）	吉田
第6回	論文読解（演習課題③：原著論文を批判的に吟味する）	吉田
第7回	文献考察と臨床活用①（ガイドラインを中心に）	吉田
第8回	文献考察と臨床活用②（ガイドラインを中心に）、総括（授業の振り返り）	吉田

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験	□実技試験	□実習評価	□小テスト	☑レポート	☑その他(口頭試問)
	（　%）	（　%）	（　%）	（　%）	（70%）	（30%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。 演習課題は各自が主体的に取り組み、疑問があればその都度解決すること。					
履修条件						

教科書	適宜、資料を配布する（理学療法診療ガイドラインなど）。
参考書	標準理学療法学（専門分野）　理学療法研究法　第3版　医学書院

科目名	理学療法評価学 2			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	大平真祐子（長崎リハビリテーション学院専任講師）　（実務経験*：有）						
科目担当者	大平真祐子・森健次郎（長崎リハビリテーション学院専任講師）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

＊実務経験とは PT・OT・ST の経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法を実施するにあたって必要な評価の知識および技術を習得する。【大平】 各検査測定項目の意義を理解し、運動器系理学療法学・中枢神経系理学療法学へとつなげていくことを目的とする。【森】
授業の到達目標	形態測定、関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査（MMT）方法を知る【大平】 運動器系疾患および中枢神経系疾患に対する各検査測定項目の説明、実践ができるようになる。【森】

授業計画

回 数	内　容	担 当
第 1 回	知覚検査	森
第 2 回	深部腱反射・病的反射	森
第 3 回	筋トーヌス検査、痛みの評価	森
第 4 回	バランステスト	森
第 5 回	協調性検査	森
第 6 回	片麻痺機能検査	森
第 7 回	脳神経検査	森
第 8 回	高次脳機能検査	森
第 9 回	形態測定の概論（検査の意義、異常値の考え方）	大平
第 10 回	形態測定の実習（上肢長・下肢長・周径）	大平
第 11 回	ROM 測定の概論（検査の意義、可動域制限の考え方）	大平
第 12 回	ROM 測定の実習（ゴニオメーターの使い方など）	大平
第 13 回	MMT の概論（検査の意義、筋力低下の考え方）	大平
第 14 回	MMT の実習（抵抗の加え方など）	大平
第 15 回	アセスメントの考え方	大平

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他（　　） （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	正確な評価を行うためにも骨や筋などの解剖学を復習し、理解しておくように。【大平】 1 年の時に学習した検査・測定について復習しておく。【森】
履修条件	必修科目であるため、必ず出席すること。

教科書	新・徒手筋力検査法（協同医書出版社）【大平】 PT・OT のための測定評価 DVD　Series1　ROM 測定（三輪書店）【大平】 標準理学療法学　理学療法評価学（医学書院）【森】 ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）【森】
参考書	必要時、講義にて紹介する。

科目名	理学療法画像評価学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	井ノ上修一（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	・理学療法に必要な画像評価について学習する。 ・種々の画像所見と機能障害の関連を理解する。 ・構造（画像所見）と機能の関連について理解する。
授業の到達目標	・国家試験で問われるレベルは最低限理解する。 ・画像所見から病歴聴取や検査・測定項目を挙げることができる。

授業計画		
回数	内　容	担当
第1回	理学療法画像評価学 総論	井ノ上
第2回	単純X線画像所見と機能障害 （運動器障害・内部障害）	井ノ上
第3回	断層画像（CT・MRI）所見と機能障害1 （中枢神経障害）	井ノ上
第4回	断層画像（CT・MRI）所見と機能障害② （運動器障害・内部障害）	井ノ上
第5回	超音波画像評価① 超音波検査の基礎と演習①	井ノ上
第6回	超音波画像評価② 演習②	井ノ上
第7回	超音波画像評価③ 演習③	井ノ上
第8回	まとめ	井ノ上

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　100%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	解剖学を復習しながら実施しますが、予習することをアドバイスします 超音波画像の回は、動きやすい服装で受講してください
履修条件	

教科書	・随時、資料を配布します。
参考書	・解剖学（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）医学書院 ・プロメテウス解剖学コアアトラス　医学書院

科目名	理学療法評価学実習２			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	大平真祐子（長崎リハビリテーション学院　専任講師）　（実務経験*：有）						
科目担当者	大平真祐子・森健次郎（長崎リハビリテーション学院　専任講師）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	2	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法を実施するにあたって必要な評価の知識および技術を習得する。【大平】 「理学療法評価学２」で学習した内容を踏まえ、各種検査法の注意点を理解し、学生同士で実習を行う。【森】
授業の到達目標	形態測定、関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査（MMT）を正確に実施できるようになる。アセスメントの考え方を知る。【大平】 各種検査法の注意点を理解し、正確に説明、実施ができる。【森】

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	形態測定実習（上肢周径・下肢周径）	大平	13	知覚検査	森
2	形態測定実習（上肢長・下肢長）	大平	14	深部腱反射・病的反射	森
3	ROM実習（肩甲帯・上肢）	大平	15	筋トーヌス検査	森
4	ROM実習（肩甲帯・上肢）	大平	16	バランステスト	森
5	ROM実習（下肢・体幹）	大平	17	協調性検査	森
6	ROM実習（下肢・体幹）	大平	18	整形外科疾患検査―上肢―	森
7	MMT実習（頭頸部筋・体幹筋）	大平	19	整形外科疾患検査―下肢―	森
8	MMT実習（上肢の筋）	大平	20	整形外科疾患検査―脊柱、体幹―	森
9	MMT実習（上肢の筋）	大平	21	片麻痺機能検査	森
10	MMT実習（下肢の筋）	大平	22	脳神経検査	森
11	MMT実習（下肢の筋）	大平	23	まとめ	森
12	まとめ	大平			

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験　☑実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　　%)　(100%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	評価を実施するには正確な触診技術や客観的な観察力が求められます。正確な評価を行うためにも骨や筋などの解剖学を復習し、理解しておくようにして下さい。【大平】 検査・測定に必要な解剖学、運動学、生理学について復習しておくようにしてください。【森】
履修条件	実技中心の授業の為、動きやすい服装が望ましい。

教科書	新・徒手筋力検査法（協同医書出版社）【大平】 PT・OTのための測定評価DVD　Series1　ROM測定（三輪書店）【大平】 標準理学療法学　理学療法評価学（医学書院）【森】 ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）【森】
参考書	必要時、講義にて紹介する。

科目名	物理療法学２			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	河合　正行（元長崎リハビリテーション学院　専任講師）（実務経験*：有）						
科目担当者	河合　正行（元長崎リハビリテーション学院　専任講師）						
学　科	理学療法学科一部			学　年	2	授業の形態	講義
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法の主要な介入手段の一つである物理療法について学ぶ。 温熱療法の生理学的反応、種類、適応と禁忌、操作法などを理解し、安全に治療ができるだけの知識を獲得する。
授業の到達目標	○物理療法機器の分類と出力エネルギーについて理解できること。 ○どの様な生理学的反応が生じるかを理解できること。 ○目的に応じた適切な物理療法機器を選択できること。 ○リスク管理、安全な治療が理解できること。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	温熱療法総論	河合
第２回	超音波療法総論	河合
第３回	寒冷療法総論	河合
第４回	光線療法総論	河合
第５回	電気刺激療法総論	河合
第６回	電気診断学	河合
第７回	水治療法総論	河合
第８回	牽引療法総論	河合
第９回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	物理療法機器は効果とともに常にリスクを伴います。集中して受講してください
履修条件	必須科目ですので休まないように

教科書	理学療法学テキストⅨ　物理療法　第２版　神陵文庫 適時、プリント資料、スライドなどを使用します
参考書	

科目名	物理療法学実習			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	河合　正行（元長崎リハビリテーション学院専任講師）（実務経験*：有）						
科目担当者	河合　正行（元長崎リハビリテーション学院専任講師）						
学　科	理学療法学科一部			学　年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実習	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	物理療法機器について、名称、生理学的効果、禁忌、操作法などを理解し、患者様に対し安全に治療ができるだけの技術を獲得する。
授業の到達目標	○物理療法機器の名称、エネルギー形態などを理解できること。 ○生理学的反応が生じるかを理解できること。 ○目的に応じた適切な物理療法機器を選択できること。 ○リスク管理を理解し、患者さんに安全な治療が行えること。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	ホットパック治療	河合	16	ＴＥＮＳ治療	〃
2	パラフィン治療	〃	17	ＦＥＳその他の電気治療	〃
3	超短波療法	〃	18	渦流浴、ハバードタンク治療	〃
4	極超短波療法	〃	19	水中運動療法について	〃
5	超音波療法	〃	20	腰椎牽引治療	〃
6	アイスパック・アイスマッサージ	〃	21	頸椎牽引治療	〃
7	コールドパック治療	〃	22	筋電バイオフィードバック療法	〃
8	クリッカー治療	〃	23	CPM 治療	〃
9	極低温療法	〃	24	間歇的圧迫治療	〃
10	赤外線療法	〃	25		
11	紫外線療法	〃	26		
12	レーザー療法	〃	27		
13	電気診断（SD 曲線測定）	〃	28		
14	ＮＭＥＳ治療	〃	29		
15	ＥＭＳ治療	〃	30		

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　　%)　(100%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	物理療法機器とその使用法をしっかり学んでください 禁忌と適応をしっかり把握してください
履修条件	必須科目ですので休まないように

教科書	理学療法学テキストIX　物理療法　第2版　神陵文庫 プリント、スライドなども使用します
参考書	

科目名	日常生活活動学実習			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	早井　あかね（長崎リハビリテーション学院　理学療法学科）　（実務経験：有）						
科目担当者	早井　あかね						
学　科	理学療法学科一部			学　年	2		
授業の形態	講義・実習	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	４５

授業の概要（主題）	疾患別、障害別の日常生活活動評価・指導法を学び、また学生同士で体験実習を行いながら、指導方法を身につける
授業の到達目標	ＡＤＬ評価・指導に必要な基本動作について、具体的に述べることができる。 また疾患に特徴的な日常生活活動動作を把握し、臨床実習の場で活かすことができる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	Barthel　Index（BI）	早井	16	四肢麻痺・対麻痺（４）	〃
2	FIM	〃	17	関節リウマチ（１）	〃
3	FIM	〃	18	関節リウマチ（２）	〃
4	FIM　／　Barthel　Index（BI）	〃	19	腰痛症	〃
5	片麻痺（１）	〃	20	THA&TKA	〃
6	片麻痺（２）	〃	21	切断患者	〃
7	片麻痺（３）	〃	22	視覚障害	〃
8	片麻痺（４）	〃	23	まとめ	〃
9	片麻痺（５）	〃	24		
10	片麻痺（６）	〃	25		
11	パーキンソン病（１）	〃	26		
12	パーキンソン病（２）	〃	27		
13	四肢麻痺・対麻痺（１）	〃	28		
14	四肢麻痺・対麻痺（２）	〃	29		
15	四肢麻痺・対麻痺（３）	〃	30		

成績評価の方法 （評価の基準）	■定期試験　■実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　■その他 （　授業態度など　） （50%）　（50%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	ＡＤＬ指導技術は理学療法において大切な分野になりますので、積極的に実習に取り組んでください。
履修条件	ＡＤＬ動作の練習を行うため、動きやすい服装（ユニフォーム、ジャージなど）で出席してください。

教科書	理学療法学テキスト　日常生活活動学（MEDICAL　VIEW、2020年） 脳卒中の機能評価・ＳＩＡＳとＦＩＭ[基礎編]（千野直一編、金原出版、2012年）
参考書	日常生活活動（ＡＤＬ）第２版（千住秀明監修、神陵文庫、2015年） 必要に応じて、随時、授業中に提示します。

科目名	義肢学			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	町田　勝広（長崎リハビリテーション学院　専任講師）					（実務経験：有）	
科目担当者	町田　勝広						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
授業の形態	講義	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	15

授業の概要（主題）	義肢に関する基礎的知識と適合判定について理解を深める。 四肢切断者のリハビリテーション及び多職種によるチームアプローチを理解する。
授業の到達目標	1．義肢の名称・分類・使用目的を説明できる。 2．義肢の適合判定およびその対処方法を説明できる。 3．切断者に対するリハビリテーションの流れが説明できる

授業計画

回 数	内　容	担 当
1	四肢切断総論下肢切断者のリハビリテーション	町田
2	下肢切断者の評価・義足装着前訓練	町田
3	下肢切断の理学療法（切断レベル、義足の構造と構成要素）	町田
4	義足の構成要素、適合とアライメント	町田
5	義足装着訓練の実際（大腿義足装着練習、下腿義足のアライメント）	町田
6	義足装着訓練の実際（下腿義足装着練習、下腿義足のアライメント）	町田
7	下肢切断者の基本動作、日常生活活動、社会生活活動	町田
8	その他の下肢切断と義足、義肢学まとめ	町田

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他（　　） （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	・ 健常者の歩行について歩行周期と各期における下肢の運動と機能を学習してください。 ・ 予習と復習を心がけてください。適時課題または小テストを行い学習の成果を確認します。 ・ 義肢を実際に手にとって確認してください。注意点として、可動部でケガをすることがあるので、義肢を扱う際は必ず教員の指示に従い、丁寧に扱ってください。 ・ テキストを中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。資料は必ずファイリングしておきましょう。 ・ 教科書や配布資料を毎回必ず持参してください。 ・ 授業で使用する以外のもの（スマホ、たばこ等）はバッグの中に入れてください。 ・ 整形外科学や内科学、病理学との関連性について確認しましょう。 ・ 授業中の質問は積極的にしましょう。個別でも対応しますので、町田の空き時間を確認してください。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。
教科書	「PT・OT ビジュアルテキスト　義肢・装具学　第１版」(監)高田治実、(編)豊田輝ほか,羊土社
参考書	「義肢装具のチェックポイント第８版」, 日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会 (監), 医学書院 「15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト　義肢学」, 石川朗 (編)、中山書店 「切断と義肢」, 澤村誠志 (著)、医歯薬出版 「理学療法学テキストⅥ義肢装具学　第２版」, 千住秀明 (監), 大峯三郎ほか (編), 神陵文庫

科目名	義肢学演習			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	町田　勝広（長崎リハビリテーション学院　専任講師）					（実務経験：有）	
科目担当者	町田　勝広 小山　隆鶴（所属　長崎有薗義肢製作所 義肢装具士 ）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
授業の形態	講義	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	30

授業の概要 （主題）	義肢の適合判定の異常を説明することができるについて理解を深める。 四肢切断者のリハビリテーション及び多職種によるチームアプローチを理解する。
授業の到達目標	1．義肢を適切に扱うことができる。 2．義肢の適合判定およびその異常に対する対処方法を説明できる。 3．切断者に対する基本的理学療法を実施することができる。

授業計画

回 数	内　容	担 当
1	義肢学演習オリエンテーション，下肢切断者の評価（1）	町田
2	下肢切断者の評価（2）	町田
3	下肢切断者のリハビリテーション（1）義足装着前訓練　切断術後管理	町田
4	下肢切断者のリハビリテーション（2）義足装着前訓練　術後の理学療法	町田
5	下肢切断者のリハビリテーション（3）基本動作、日常生活活動指導	町田
6	義足の基本的な適合判定とアライメント調整（1）	町田
7	義足の基本的な適合判定とアライメント調整（2）	町田
8	義足装着訓練の実際（大腿義足装着練習、大腿義足のアライメント）（1）	町田
9	義足装着訓練の実際（大腿義足装着練習、大腿義足のアライメント）（2）	町田
10	義足装着訓練の実際（下腿義足装着練習、下腿義足のアライメント）（1）	町田
11	義足装着訓練の実際（下腿義足装着練習、下腿義足のアライメント）（2）	町田
12	義肢・装具制作の実際１	小山
13	義肢・装具制作の実際２	小山
14	義肢・装具制作の実際３	小山
15	義肢・装具制作の実際４	小山

成績評価の方法 （評価の基準）	□定期試験 （　%）	■実技試験/口頭試問 （７０%）	□実習評価 （　%）	□小テスト （　%）	■レポート （３０%）	□その他（　） （　%）

準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	・ 義肢学の講義内容を踏まえて、切断者の理学療法の実際を体験します。 ・ 授業は主に演習を行います。また、実習内容により四肢を大きく露出する必要があるので、必ずジャージや T シャツ、短パン、スパッツなど動きやすい、四肢を露出しやすい服装で出席してください。 ・ 実習ではプリント等に記録を記載しながら行うので、毎回 A4 サイズのクリップボードを準備してください。 ・ 予習と復習を心がけてください。適時課題または小テストを行い学習の成果を確認します。 ・ 義肢を実際に扱う際は必ず教員の指示に従い、丁寧に扱ってください。 ・ テキストを中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。教科書や配布資料を毎回必ず持参してください。 ・ 授業で使用する以外のもの（スマホ、たばこ等）はバッグの中に入れてください。 ・ 授業中の質問は積極的にしましょう。個別でも対応しますので、町田の空き時間を確認してください。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。
教科書	「PT・OT ビジュアルテキスト　義肢・装具学　第１版」(監)高田治実、(編)豊田輝ほか,羊土社
参考書	「義肢装具のﾁｪｯｸﾎﾟｲﾝﾄ第８版」，日本整形外科学会・日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学会（監），医学書院 「15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト　義肢学」，石川朗(編)、中山書店 「切断と義肢」，澤村誠志(著)、医歯薬出版

科目名	装具学			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	福田哲也（実務経験*：有）						
科目担当者	福田哲也						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	装具の総論について理解する。
授業の到達目標	1．装具の目的と分類を理解する。 2．下肢装具の構成部品とそのチェックアウトを理解する。 3．足継手の制御機構を理解する。

授業計画

回 数	内　容	担 当
第1回	総論（①装具の定義、②装具の目的と代表例、③装具の分類、④そのほか）	福田
第2回	下肢装具について（①構成部品）	福田
第3回	下肢装具について（②チェックアウト）	福田
第4回	足継手の制御機構（①足関節の運動と足継手の動き）	福田
第5回	足継手の制御機構（②金属支柱付き装具用の足継手）	福田
第6回	足継手の制御機構（③底屈制限と背屈制限）	福田
第7回	足継手の制御機構（④プラスチック短下肢装具の足関節機構）	福田
第8回	足継手の制御機構（足継手が膝関節に与える効果）	福田

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　□レポート（　%）　□その他（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	装具を実際に手にとって確認すること。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	PT・OTビジュアルテキスト　義肢・装具学（羊土社）
参考書	

科目名	装具学演習			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	福田哲也（実務経験*：有）						
科目担当者	福田哲也						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	30

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	疾患別の装具療法について理解する。
授業の到達目標	1．症状ごとの適応について理解する。 2．各装具の機能とチェックアウトについて理解する。

授業計画					
回　数	内　容	担　当	回　数	内　容	担　当
第1回	脳卒中片麻痺の装具	福田	第9回	靴型装具	福田
第2回	対麻痺の装具	福田	第10回	ケーススタディ	福田
第3回	整形外科的装具	福田	第11回	ケーススタディ	福田
第4回	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	福田	第12回	ケーススタディ	福田
第5回	末梢神経障害の装具	福田	第13回	ケーススタディ	福田
第6回	脊柱側彎症の装具	福田	第14回	ケーススタディ	福田
第7回	小児疾患の装具	福田	第15回	まとめ	福田
第8回	関節リウマチの装具	福田			

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　□レポート（　%）　□その他（　）（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	装具を実際に手にとって確認すること。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	PT・OTビジュアルテキスト　義肢・装具学（羊土社）
参考書	

科目名	疾患別理学療法学１（運動器）			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）（実務経験*：有）						
科目担当者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	運動器障害に対する理学療法の概要
授業の到達目標	腰痛症の理学療法について理解する 骨折の理学療法について理解する 関節リウマチの理学療法について理解する 末梢神経損傷の理学療法について理解する 上肢帯障害の理学療法について理解する 下肢帯障害の理学療法について理解する

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	運動器理学療法総論	井ノ上
第２回	腰痛症	井ノ上
第３回	骨折	井ノ上
第４回	関節リウマチ	井ノ上
第５回	末梢神経損傷	井ノ上
第６回	胸郭出口症候群	井ノ上
第７回	肩関節周囲炎	井ノ上
第８回	変形性関節症	井ノ上
第９回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	事前に教科書を概観しておくと理解しやすいと思います “？”と思った瞬間が、“わかる”チャンスです！！ 先延ばししない様に！！
履修条件	

教科書	運動療法学テキスト（南江堂） 運動器疾患の治療とリハビリテーション（メジカルビュー社）
参考書	

科目名	疾患別理学療法学２			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	中尾 夕子／長崎リハビリテーション学院（実務経験*：有）						
科目担当者	中尾 夕子／長崎リハビリテーション学院						
学　科	理学療法学科一部					学　年	２年
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	中枢神経障害の障害像を捉え、基本的な理学療法について学ぶ。
授業の到達目標	1.　中枢神経の構造と機能、病態生理を理解する。 2.　脳卒中の障害像とそれに対する基本的な理学療法の進め方を理解する。 3.　脳卒中の障害に対する理学療法の知識･技術を理解する。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	中枢神経系の構造と機能 脳卒中の病態	中尾
第２回	脳画像 脳卒中の回復メカニズム	中尾
第３回	脳卒中の障害構造とリスク管理 意識障害	中尾
第４回	運動麻痺 感覚障害	中尾
第５回	異常筋緊張 運動失調	中尾
第６回	姿勢バランス障害 歩行障害	中尾
第７回	身体失認・病態失認 半側空間無視、失行、注意・遂行機能障害	中尾
第８回	姿勢定位障害 痛み	中尾

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	中枢神経系の解剖学と脳血管疾患について復習しておいてください。 配布資料がたくさんあるので、ファイルにまとめて保管してください。
履修条件	私語は慎むこと，配布資料を忘れず持参すること

教科書	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学（医学書院） 病気がみえる⑦脳･神経（MEDIC MEDIA）
参考書	必要に応じて紹介します。

科目名	疾患別理学療法学3(脊髄損傷)			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科) (実務経験*:有)						
科目担当者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)						
学 科	理学療法学科一部			学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義・演習	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要(主題)	中枢神経系の基本的機能と構造を理解し症候学と対応した考え方を養う。病態障害学では脊髄損傷の疫学、症候学や標準的治療を包括したのち一次障害、二次障害に関する理解とそれらに対する理学療法アプローチの理論と技術を学ぶ。
授業の到達目標	

一般目標	①	中枢神経系の基本構造と機能を理解する
	②	各種中枢神経系疾患の障害背景を理解する
	③	中枢性疾患で生じる一次障害と二次障害の構造を理解する
	④	各病期に応じた、理学療法評価と治療の過程を学ぶ。
行動目標	①	中枢神経系の基本構造と機能を説明できる
	②	代表的な中枢神経疾患の特徴とその治療を説明できる
	③	一次障害と二次障害に対するアプローチの理論と技術を習得し技術に触れる

授業計画

回 数	内 容	担 当
第1回	脊髄損傷症候学1:脊髄の構造と機能(解剖学的特徴・脊髄内の伝導路)	町田
第2回	背髄損傷の原因/脊髄障害における神経学的徴候/損傷分類・麻痺の分類/障害像	町田
第3回	背髄損傷の原因/脊髄障害における神経学的徴候/損傷分類・麻痺の分類/障害像	町田
第4回	脊髄障害症候学 2 (随伴症・合併症):痙縮/自律神経障害(血圧、呼吸、体温、発汗)/疼痛/骨関節障害(異所性骨化・骨萎縮)/褥創/排尿・尿路障害/消化器・腸管障害/循環障害/性機能障害/心理.	町田
第5回	脊髄損傷者の評価	町田
第6回	脊髄損傷者の急性期理学療法	町田
第7回	回復期の理学療法1 対麻痺者へのアプローチ:基本動作・日常生活活動(寝返り・起居・床上移動・移乗動作・更衣・排泄動作・入浴動作)	町田
第8回	回復期の理学療法 2 四肢麻痺者へのアプローチ:基本動作・日常生活活動(寝返り・起居・床上移動・移乗動作・更衣・排泄動作・入浴動作)	町田

成績評価の方法 （評価の基準）	■定期試験　□実技口頭試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他（　　） （ 100 %）　（ %）　（ %）　（ %）　（ %）　（ %）
準備学習 学習への ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	1. 脊髄神経の解剖学、生理学、四肢体幹の運動学を復習しましょう。 2. 他の疾患学や治療学の講義との関連性考えましょう。 3. 授業中の質問は特に歓迎します．わからないことは積極的に質問してください． 4. 講義後は十分な復習を行ってください． 5. 質問等は事前に空き時間を町田に確認していただくと、個別に解説等の時間を設けます． 6. 授業開始までには着席してください。教科書や配布資料を必ず持参してください． 7. 授業で使用する以外のもの（携帯電話、たばこ等）を机上に置かないでください． 8. 身体に何らかの病気を有し演習に支障をきたす学生は、事前に必ず教員に申し出てください． 9. 次に示す行為と判断した場合注意します。繰り返しの注意や目に余る行為については退室を命じます.●授業で使用するもの以外を机の上に置く（携帯電話、タバコなど）●携帯電話を操作する●講義中の飲食（ガム・キャンディを含む）●講義の妨げとなる行為（私語・態度不良・居眠り等）●その他注意に応じない場合
履修条件	必修科目であり、授業には連続性があるので、必ず出席してください。
教科書	・脊髄損傷理学療法マニュアル　第 2 版，岩崎洋（編），文光堂 ・標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第 4 版，奈良勲（監），野村嶬（編），医学書院
参考書	・中枢神経障害理学療法学テキスト，細田多穂，　南光堂 ・細田多恵ほか編：理学療法ハンドブック　改訂第 4 版　第 3 巻　疾患別・理学療法基本プログラム，協同医書出版 ・田崎義明：ベッドサイドの神経の診かた　第 15 版.南山堂

科目名	疾患別理学療法学４（神経・筋疾患）			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	福田哲也（長崎リハビリテーション学院専任講師）					（実務経験*：有）	
科目担当者	福田哲也						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	神経難病に対する理学療法の思考を高める。
授業の到達目標	１．疾患の特徴的な症状が理解できる。 ２．疾患に応じたプログラムの立案ができる。 ３．理学療法介入時のリスク管理が理解できる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	パーキンソン病	福田
第２回	パーキンソン病	福田
第３回	運動失調症	福田
第４回	運動失調症	福田
第５回	筋ジストロフィー症	福田
第６回	ALS	福田
第７回	ALS、多発性硬化症	福田
第８回	多発性神経炎、多発性筋炎、重症筋無力症、ランバートイートン症候群	福田

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　□レポート（　%）　□その他（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	神経難病の病態に関して復習しておいてください。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	系統理学療法学　神経障害系理学療法学（医歯薬）
参考書	

科目名	疾患別理学療法学5(小児疾患の理学療法)	開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)(実務経験:有)				
科目担当者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)				
学 科	理学療法学科一部			学 年	2
必修/選択	必須	授業の形態	講義・演習	単位数	1	時間数	15

授業の概要(主題)	主に出生から乳幼児期までの正常姿勢反射および正常発達について理解していく。 また、正常発達と発達障がいの違いを確認し、小児の疾患について理解を深める。 さらに、小児疾患に対する理学療法の目標設定、アプローチの原則および方法について学ぶ。
授業の到達目標	

一般目標	①	正常な発達について説明ができる
	②	正常な姿勢反射と運動発達の関係について説明ができる
	③	小児の疾患や障害の特徴および理学療法について説明が出来る
行動目標	①	乳幼児期までの発達段階を説明することができる
	②	乳幼児の発達に関する検査測定、理学療法評価を説明することができる
	③	各小児疾患・障害について特徴を説明することができる
	④	小児疾患に対する理学療法について説明することができる

授業計画

回 数	内 容	担 当
第1回 第2回	【正常発達】 ・運動発達の理論　・正常運動発達	町田
第3回 第4回	・運動発達の評価　・正常姿勢反射と運動発達	町田
第5回 第6回	【運動発達障害】 ・脳性麻痺・総論	町田
第7回 第8回	脳性麻痺 ①痙直型四肢麻痺 ②痙直型両麻痺 ③その他の緊張型	町田

科目名	疾患別理学療法学5(小児疾患の理学療法)	開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)(実務経験:有)				
科目担当者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)				
学 科	理学療法学科一部			学 年	2

必修/選択	必須	授業の形態	講義・演習	単位数	1	時間数	15

授業の概要(主題)	主に出生から乳幼児期までの正常姿勢反射および正常発達について理解していく。 また、正常発達と発達障がいの違いを確認し、小児の疾患について理解を深める。 さらに、小児疾患に対する理学療法の目標設定、アプローチの原則および方法について学ぶ。
授業の到達目標	

一般目標	①	正常な発達について説明ができる
	②	正常な姿勢反射と運動発達の関係について説明ができる
	③	小児の疾患や障害の特徴および理学療法について説明が出来る
行動目標	①	乳幼児期までの発達段階を説明することができる
	②	乳幼児の発達に関する検査測定、理学療法評価を説明することができる
	③	各小児疾患・障害について特徴を説明することができる
	④	小児疾患に対する理学療法について説明することができる

授業計画

回 数	内 容	担 当
第1回 第2回	【正常発達】 ・運動発達の理論　・正常運動発達	町田
第3回 第4回	・運動発達の評価　・正常姿勢反射と運動発達	町田
第5回 第6回	【運動発達障害】 ・脳性麻痺・総論	町田
第7回 第8回	脳性麻痺 ①痙直型四肢麻痺 ②痙直型両麻痺 ③その他の緊張型	町田

成績評価の方法 （評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	1. 授業開始までには着席してください。 2. テキストを中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。資料は必ずファイリングしておきましょう。 3. 教科書や配布資料を必ず持参してください。 4. 講義ではパソコンとプロジェクターを使用します。 5. 実習を行う際はジャージまたはユニフォームに着替えてください 6. 授業で使用する以外のもの(携帯電話、たばこ等)はバッグの中に入れてください。 7. 不必要な私語は慎んでください。話し合いの時間に積極的に発言しましょう。 8. わからないことは積極的に質問してください．授業中の質問は特に歓迎します。 9. 事前に空き時間を町田に確認していただくと、個別に解説等の時間を設けます。 10. 講義後は十分な復習を行いましょう。 11. 他の疾患学や治療学との関連性について確認し整理しましょう。 12. 次に示す行為と判断した場合注意します。繰り返しの注意や目に余る行為については退室を命じ欠席扱いとします.●授業で使用するもの以外を机の上に置く(携帯電話、タバコなど)●携帯電話を操作する(メール等)●講義中の飲食(ガム・キャンディを含む)●講義の妨げとなる行為(私語・態度不良・居眠り等)●その他注意に応じない場合 指導は「やさしさ」と「厳しさ」をモットーにしています。社会人として「礼儀正しく」「丁寧に」「真剣に」学ぶ姿勢と、学びを「楽しむ」ことが重要だと考えています。 授業内でわかりにくかったところは可能な限りわかりやすく解説します。積極的な質問は歓迎します。授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。
履修条件	必修科目であり、授業には連続性があるので、必ず出席してください。

教科書	1．シンプル理学療法学シリーズ「小児理学療法学テキスト　改訂第3版」，細田多穂(監)，田原弘幸ほか(編)，南江堂.
参考書	1．理学療法ハンドブック　改訂第 4 版，細田多穂 (著･編)，柳澤 健 (編)，協同医書. 2．理学療法学テキストⅧ「こどもの理学療法　第 2 版」，千住秀明(監)，田原弘幸(編)，神陵文庫. 3．「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭ほか(著)，南山堂. 4．標準理学療法学　専門分野 「理学療法評価学」，奈良勲(監)，内山靖(編)，医学書院.

科目名	疾患別理学療法学6(内部障害)			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	森　健次郎(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)　　(実務経験：有)						
科目担当者	森　健次郎(長崎リハビリテーション学院)　花田　匡利（長崎大学病院 理学療法士 ）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	運動が呼吸・循環・代謝・消化器系に及ぼす影響を理解させ、運動処方作成の理論と作成方法について理解する。さらに代表とする疾患について運動処方に基づく運動療法について習得する。
授業の到達目標	1.運動強度とエネルギー代謝を理解できる。 2.内部疾患の運動処方と運動療法について理解できる。 （糖尿病・循環器疾患・腎疾患・高脂血症・末梢循環障害） 3.呼吸理学療法概論および呼吸器系疾患の評価について理解できる。 4.呼吸理学療法に必要な胸部画像所見について理解できる。 5.急性期における呼吸理学療法について理解できる。 6.週術期理学療法について理解できる。 7.慢性期における呼吸理学療法について理解できる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	運動処方(総論)運動強度とエネルギー代謝	森
第2回	糖尿病の運動処方・運動療法について	森
第3回	循環器疾患のための運動処方・運動療法について	森
第4回	腎疾患・高脂血症・末梢循環障害の運動処方・運動療法について	森
第5回	呼吸理学療法概論	花田
第6回	胸部画像所見の見方	花田
第7回	急性期呼吸理学療法（早期離床)、周術期理学療法	花田
第8回	慢性期における呼吸理学療法	花田

成績評価の方法 （評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (100％)　(　％)　(　％)　(　％)　(　％)　(　％)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	略語および専門用語が多く、生理学も復習しておく。
履修条件	

教科書	内部障害理学療法学テキスト　改訂第3版, 南江堂
参考書	必要時、授業にて紹介する

科目名	疾患別理学療法学１実習（運動器）			開講年度	2022	期	前
科目担当責任者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）（実務経験*：有・無）						
科目担当者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	運動器障害に対する理学療法技術の実習
授業の到達目標	腰痛症の理学療法実習 骨折の理学療法実習 関節リウマチの理学療法実習 末梢神経損傷の理学療法実習 上肢帯障害の理学療法実習 下肢帯障害の理学療法実習

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	腰痛症の理学療法実習①		16	上肢帯障害の理学療法実習④	
2	腰痛症の理学療法実習②		17	上肢帯障害の理学療法実習⑤	
3	腰痛症の理学療法実習③		18	下肢帯障害の理学療法実習①	
4	腰痛症の理学療法実習④		19	下肢帯障害の理学療法実習②	
5	骨折の理学療法実習①		20	下肢帯障害の理学療法実習③	
6	骨折の理学療法実習②		21	下肢帯障害の理学療法実習④	
7	骨折の理学療法実習③		22	下肢帯障害の理学療法実習⑤	
8	骨折の理学療法実習④		23	下肢帯障害の理学療法実習⑥	
9	関節リウマチの理学療法実習①		24		
10	関節リウマチの理学療法実習②		25		
11	関節リウマチの理学療法実習③		26		
12	関節リウマチの理学療法実習④		27		
13	上肢帯障害の理学療法実習①		28		
14	上肢帯障害の理学療法実習②		29		
15	上肢帯障害の理学療法実習③		30		

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験　☑実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　　%)　(100%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	講義で説明した内容を理解しておいてください
履修条件	

教科書	運動療法学テキスト（南江堂） 運動器疾患の治療とリハビリテーション（メジカルビュー社）
参考書	

科目名	疾患別理学療法学２実習			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	中尾 夕子／長崎リハビリテーション学院（実務経験*：有）						
科目担当者	中尾 夕子／長崎リハビリテーション学院						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2年
必修／選択	必修	授業の形態	講義・実習	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	中枢神経障害に対する基本的な理学療法について学ぶ。
授業の到達目標	1. 脳卒中の障害に対する基本的な評価・理学療法を理解する。 2. 脳卒中片麻痺患者に特徴的な動作を理解する。 3. 脳卒中片麻痺患者に対する関節可動域運動が実施できる。 4. 脳卒中片麻痺患者に対する基本動作指導を実施できる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	意識障害	中尾	16	片麻痺患者に対する基本動作指導①	中尾
2	運動麻痺	中尾	17	片麻痺患者に対する基本動作指導②	中尾
3	感覚障害	中尾	18	片麻痺患者に対する基本動作指導③	中尾
4	異常筋緊張	中尾	19	片麻痺患者に対する基本動作指導④	中尾
5	運動失調	中尾	20	ケーススタディ①	中尾
6	姿勢バランス障害	中尾	21	ケーススタディ②	中尾
7	歩行障害	中尾	22	ケーススタディ③	中尾
8	身体失認・病態失認	中尾	23	ケーススタディ④	中尾
9	半側空間無視	中尾	24	まとめ	中尾
10	失行	中尾	25		
11	注意・遂行機能障害	中尾	26		
12	姿勢定位障害	中尾	27		
13	痛み	中尾	28		
14	急性期の関節可動域運動①	中尾	29		
15	急性期の関節可動域運動②	中尾	30		

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験 ☑実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他（　　） （　　%）（100%）（　　%）（　　%）（　　%）（　　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	基本動作や運動療法の基本について復習しておいてください。
履修条件	私語は慎むこと，実習は積極的に取り組むこと，動きやすい服装で参加すること

教科書	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学（医学書院） 病気がみえる⑦脳・神経（MEDIC MEDIA）
参考書	必要に応じて紹介します。

科目名	疾患別理学療法学3実習(脊髄損傷)			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)(実務経験*:有)						
科目担当者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)						
学 科	理学療法学科一部			学 年	2		
必修/選択	必修	授業の形態	講義・演習	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要(主題)	脊髄損傷者に対する検査測定について学び、想定された症例の検査測定結果から統合と解釈、問題点の抽出といった思考過程を経験する。脊髄損傷者のリハビリテーションについて学び、一次障害、二次障害に対する理学療法アプローチの理論と技術を演習で学ぶ。
授業の到達目標	

一般目標	①	脊髄損傷の障害像を理解する
	②	脊髄損傷者の評価を理解する
	③	脊髄損傷者に対する理学療法アプロ―チの理論的背景を理解する
	④	各病期と障害レベルに応じた、理学療法評価と治療の過程を理解する
行動目標	①	脊髄損傷の障害像を説明できる
	②	脊髄損傷者の評価と基本的理学療法を実施することができる
	③	脊髄損傷者に対する理学療法アプロ―チの理論的背景を理解する
	④	ADL、車いすを中心とした動作の模倣および動作訓練が説明できる

授業計画					
回数	内 容	担当	回数	内 容	担当
1	脊椎と脊髄神経の解剖	町田	13	脊髄損傷者の日常生活動作④	町田
2	脊髄損傷の病態の理解①	町田	14	脊髄損傷者の社会参加①	町田
3	脊髄損傷の病態の理解②	町田	15	脊髄損傷者の社会参加②	町田
4	脊髄損傷者の評価①	町田	16	脊髄損傷者の社会参加③	町田
5	脊髄損傷者の評価②	町田	17	脊髄損傷の理学療法総合演習 1	町田
6	脊髄損傷者の基本動作練習①	町田	18	脊髄損傷の理学療法総合演習 2	町田
7	脊髄損傷者の基本動作練習②	町田	19	脊髄損傷の理学療法総合演習 3	町田
8	脊髄損傷者の基本動作練習③	町田	20	脊髄損傷の理学療法総合演習 4	町田
9	脊髄損傷者の基本動作練習④	町田	21	脊髄損傷の理学療法総合演習 5	町田
10	脊髄損傷者の日常生活動作①	町田	22	脊髄損傷の理学療法総合演習 6	町田
11	脊髄損傷者の日常生活動作②	町田	23	脊髄損傷の理学療法総合演習 7	町田
12	脊髄損傷者の日常生活動作③	町田			町田

成績評価の方法 （評価の基準）	□定期試験　■実技口頭試験　□実習評価　■小テスト　■レポート　□その他(　　) (　%)　(70%)　(　%)　(　30　%)　(　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	1. 他の疾患学や治療学の講義との関連性について確認し整理しましょう。 2. 授業中の質問は特に歓迎します．わからないことは積極的に質問してください． 3. 講義後は十分な復習を行ってください． 4. 事前に空き時間を町田に確認していただくと、個別に解説等の時間を設けます． 5. 授業開始までには着席してください。教科書や配布資料を必ず持参してください． 6. 授業は実技も交えながら行いますので、ジャージなど動きやすい服装に着替えてください。 7. 授業で使用する以外のもの(携帯電話、たばこ等)を机上に置かないでください． 8. 身体に何らかの病気を有し演習に支障をきたす学生は、事前に必ず教員に申し出てください． 9. 次に示す行為と判断した場合注意します。繰り返しの注意や目に余る行為については退室を命じます.●授業で使用するもの以外を机の上に置く(携帯電話、タバコなど)●携帯電話を操作する●講義中の飲食(ガム・キャンディを含む)●講義の妨げとなる行為(私語・態度不良・居眠り等)●その他注意に応じない場合
履修条件	必修科目であり、授業には連続性があるので、必ず出席してください。

教科書	・脊髄損傷理学療法マニュアル　第 2 版，岩崎洋(編)，文光堂 ・標準理学療法学・作業療法学　解剖学　第 4 版，奈良勲(監)，野村嶬(編)，医学書院
参考書	・中枢神経障害理学療法学テキスト，細田多穂，　南光堂 ・細田多恵ほか編：理学療法ハンドブック　改訂第 4 版　第 3 巻　疾患別・理学療法基本プログラム，協同医書出版 ・田崎義明：ベッドサイドの神経の診かた　第 15 版.南山堂

科目名	疾患別理学療法学４実習			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	福田哲也（長崎リハビリテーション学院専任講師）					（実務経験*：有）	
科目担当者	福田哲也						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	神経難病に対する理学療法について学ぶ。
授業の到達目標	疾患の特徴的な症状を理解し、症状に応じた理学療法の実践ができる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	パーキンソン病の概要	福田	16	ALS	福田
2	パーキンソン病の柔軟体操と可動域訓練	福田	17	多発性硬化症	福田
3	パーキンソン病の筋力維持訓練とバランス訓練	福田	18	多発性硬化症	福田
4	パーキンソン病の徒手胸郭伸張法	福田	19	多発性筋炎	福田
5	パーキンソン病の徒手胸郭圧迫法	福田	20	多発性筋炎	福田
6	パーキンソン病の腹式呼吸法	福田	21	重症筋無力症、その他	福田
7	運動失調症の疾患の概要	福田	22	重症筋無力症、その他	福田
8	運動失調症の評価	福田	23	まとめ	福田
9	運動失調症のフレンケル体操	福田	24		
10	運動失調症のバランス訓練	福田	25		
11	筋ジストロフィー症の概要	福田	26		
12	筋ジストロフィー症（VTR）	福田	27		
13	筋ジストロフィー症（ガワーズ徴候、デュシェンヌ歩行）	福田	28		
14	筋ジストロフィー症（ストレッチング）	福田	29		
15	ALS	福田	30		

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験　☑実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他（　　） （　　%）　（100%）　（　　%）　（　　%）　（　　%）　（　　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	疾患別理学療法学４で学んだ内容を復習しておいてください。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	系統理学療法学　神経障害系理学療法学（医歯薬）
参考書	

科目名	疾患別理学療法学5実習(小児の理学療法)			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)(実務経験:有)						
科目担当者	町田勝広(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科)						
学 科	理学療法学科一部					学 年	2
必修/選択	必須	授業の形態	講義・演習	単位数	1	時間数	45

授業の概要 (主題)	主に出生から乳幼児期までの正常姿勢反射および正常発達について理解していく。 また、正常発達と発達障がいの違いを確認し、小児の疾患について理解を深める。 さらに、小児疾患に対する理学療法の目標設定、アプローチの原則および方法について自ら調べ、考え、まとめながら学ぶ。	
授業の到達目標		
一般目標	①	小児の疾患や障害の特徴について説明が出来る
	②	小児の疾患に対する理学療法評価について説明が出来る
	③	小児の疾患に対する理学療法について説明が出来る
行動目標	①	乳幼児の発達に関する検査測定、理学療法評価を説明することができる
	②	小児疾患に対する理学療法評価についてまとめ、説明することができる
	③	小児疾患に対する理学療法の考えかたについてまとめ、説明することができる

授業計画

回 数	内 容	担 当
第 1 回	・脳性麻痺 理学療法の目的	町田
第 2 回	・脳性麻痺 理学療法評価の目的	町田
第 3 回	・脳性麻痺 理学療法評価の目的	町田
第 4 回	・脳性麻痺 理学療法評価の目的	町田
第 5 回	・脳性麻痺 理学療法評価の目的	町田
第 6 回	・脳性麻痺 理学療法評価の目的	町田
第 7 回	・脳性麻痺 理学療法評価の目的	町田
第 8 回	・脳性麻痺 理学療法評価の目的	町田
第 9 回	・脳性麻痺 理学療法の基本的な考え方	町田
第 10 回	脳性麻痺 理学療法の基本的な考え方	町田
第 11 回	・脳性麻痺 理学療法の基本的な考え方	町田
第 12 回	脳性麻痺 理学療法の基本的な考え方	町田
第 13 回	【子どもの整形外科疾患】 ・二分脊椎 ・ペルテス病 ・先天性股関節脱臼 ・その他	町田
第 14 回	【子どもの整形外科疾患】 ・二分脊椎 ・ペルテス病 ・先天性股関節脱臼 ・その他	町田
第 15 回	【子どもの遺伝性疾患】・筋ジストロフィー1. デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD) 2. その他の遺伝性疾患	町田

第 16 回	・筋ジストロフィー1. デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD) 2. その他の遺伝性疾患	町田
第 17 回	演習1	町田
第 18 回	演習2	町田
第 19 回	演習3	町田
第 20 回	演習4	町田
第 21 回	演習5	町田
第 22 回	演習6	町田
第 23 回	演習7・まとめ	町田

成績評価の方法 (評価の基準)	□定期試験 ■実技試験 □実習評価 □小テスト ■レポート・その他課題 (%) (50%) (%) (%) (50%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	1. 他の疾患学や治療学の講義との関連性について確認し整理しましょう。 2. 授業中の質問は特に歓迎します. わからないことは積極的に質問してください. 3. 講義後は十分な復習を行ってください. 4. 事前に空き時間を町田に確認していただくと、個別に解説等の時間を設けます. 5. 授業開始までには着席してください。教科書や配布資料を必ず持参してください. 6. 授業で使用する以外のもの(携帯電話、たばこ等)を机上に置かないでください. 7. 身体に何らかの病気を有し演習に支障をきたす学生は、事前に必ず教員に申し出てください. 8. 次に示す行為と判断した場合注意します。繰り返しの注意や目に余る行為については退室を命じます.●授業で使用するもの以外を机の上に置く(携帯電話、タバコなど)●携帯電話を操作する●講義中の飲食(ガム・キャンディを含む)●講義の妨げとなる行為(私語・態度不良・居眠り等)●その他注意に応じない場合
履修条件	必修科目であり、授業には連続性があるので、必ず出席してください。

教科書	・理学療法ハンドブック ・シンプル理学療法学シリーズ「小児理学療法学テキスト 改訂第 3 版」, 細田多穂(監), 田原弘幸ほか(編), 南江堂.
参考書	1. 理学療法ハンドブック 改訂第 4 版, 細田多穂 (著・編), 柳澤 健 (編), 協同医書. 2. 理学療法学テキストⅧ「こどもの理学療法 第 2 版」, 千住秀明(監), 田原弘幸(編), 神陵文庫. 3.「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭ほか(著), 南山堂. 4. 標準理学療法学 専門分野 「理学療法評価学」, 奈良勲(監), 内山靖(編), 医学書院.

科目名	疾患別理学療法学6実習	開講年度	2022年	期	後期
科目担当責任者	森　健次郎(長崎リハビリテーション学院　理学療法学科)　　(実務経験：有)				
科目担当者	森　健次郎(長崎リハビリテーション学院)　花田　匡利(長崎大学病院　理学療法士) 恒任　章(つねとう内科・循環器内科　院長)　吉永　龍史(長崎医療センター　理学療法士) 三原　ミヨ子(向陽高等学校　看護科　科長)				
学　科	理学療法学科一部			学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 (主題)	運動が呼吸・循環・代謝・消化器系に及ぼす影響を理解させ、運動処方作成の理論と作成方法について理解する。さらに代表とする疾患について運動処方に基づく運動療法について習得する。
授業の到達目標	1.運動処方について理解できる。 2.内部疾患の評価・運動処方と運動療法について理解できる。 3.呼吸理学療法に必要な胸部画像所見について理解できる。 4.急性期・慢性期における呼吸理学療法について理解できる。 5.周術期理学療法について理解できる。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	運動処方(各論)①	森	16	頻脈性不整脈２	恒任
2	運動処方(各論)②	森	17	特別講義　心臓リハの実際	吉永
3	糖尿病の評価・運動処方	森	18	徐脈性不整脈	恒任
4	糖尿病の運動療法	森	19	12誘導心電図　虚血性心疾患	恒任
5	循環器疾患の評価・運動処方	森	20	臨床で重要な循環器疾患	恒任
6	循環器疾患の運動療法	森	21	心電図と循環器疾患の総括	恒任
7	腎疾患の評価・運動処方・運動療法	森	22	喀痰吸引①	三原
8	脂質代謝異常の評価・運動処方・運動療法	森	23	喀痰吸引②	三原
9	末梢循環障害の評価・運動処方・運動療法	森	24		
10	呼吸器系疾患の評価	花田	25		
11	急性期における呼吸理学療法	花田	26		
12	周術期理学療法	花田	27		
13	慢性期における呼吸理学療法	花田	28		
14	心臓の構造と機能	恒任	29		
15	頻脈性不整脈１	恒任	30		

成績評価の方法 (評価の基準)	□定期試験　■実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) (　　%)　(100 %)　(　　%)　(　　%)　(　　%)　(　　%)
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	略語および専門用語が多く、生理学も復習しておく。
履修条件	

教科書	内部障害理学療法学テキスト　改訂第3版, 南江堂
参考書	

科目名	身障スポーツ			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院） 長井　庄吾　（所属　社会福祉法人緑葉会 大瀬戸厚生園 日中活動統括部長 ） 渡辺　雄児　（所属　長崎県ライフル射撃協会 会長 ）						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義・実技	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	障がい者スポーツの定義や目的、実施意義について学び、理学療法士が障がい者スポーツの普及・振興に果たす役割について議論する。
授業の到達目標	1.　障がい者における「スポーツ活動」の意義と理念について理解する。 2.　さまざまな障がい者スポーツの特性を理解し、その基本的な指導方法を習得する。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	オリエンテーション、日本障がい者スポーツ協会と指導員制度	吉田
第2回	障がいの理解とスポーツ①	吉田
第3回	障がいの理解とスポーツ②（ペアワーク）	吉田
第4回	障がい者スポーツの意義と理念、講義の総括（授業の振り返り）	吉田
第5回	ボッチャ・フライングディスク（実技）	長井
第6回	ボッチャ・フライングディスク（実技）	長井
第7回	ビームライフル（実技）	渡辺
第8回	ビームライフル（実技）	渡辺

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験（70%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　☑レポート（20%）　☑その他（発表）（10%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	障がい者スポーツに対する関心を高め、日頃から関連記事に目を通す。 ペアワークでは、各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。
履修条件	

教科書	毎回、資料を配布する。
参考書	障がい者スポーツ指導教本　初級・中級　改訂版　　ぎょうせい No Limit（日本障がい者スポーツ協会発行誌）

科目名	地域リハビリテーション特論			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	大平　真祐子（実務経験*：有）						
科目担当者	大平　真祐子						
学　科	理学療法学科（一部）					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	・介護保険制度や地域での各システムについて理解し、地域で生活する高齢者や障害者・児のためのリハビリテーションの知識・技術を習得する。 ・理学療法士としての地域（生活の場）への関わりについて知り、考える。
授業の到達目標	・地域リハビリテーションの理念を理解できる ・介護保険制度、障害者総合支援法について説明することができる ・地域で理学療法士が働く場について知り、機能を説明できる

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	地域リハビリテーションとは（理念や定義について知り、理解を深める）	大平
第2回	介護保険制度と障害者総合支援法を知る	〃
第3回	地域包括ケアシステム、地域で働く理学療法士について知る	〃
第4回	生活場面での疾患・障害像を理解する	〃
第5回	介護予防と健康増進について知る	〃
第6回	高齢者の体力評価について知り、体験する	〃
第7回	レクレーション、介護予防体操を考える	〃
第8回	対人援助技術について知る	〃

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　□実技試験（　%）　□実習評価（　%）　□小テスト（　%）　□レポート（　%）　□その他（　）（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	介護保険制度や施設基準など複雑な規定も多いため、しっかり予習・復習を行い、理解を深める努力をすること。
履修条件	必修科目であるので必ず出席すること。

教科書	・シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト　改訂第3版　南江堂
参考書	必要時、講義にて紹介する

科目名	リスク管理学	開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	早井　あかね（長崎リハビリテーション学院　専任講師）　（実務経験：有）				
科目担当者	早井　あかね				
学　科	理学療法学科一部		学　年	2年	
授業の形態	講義	必修/選択	必修	単位数	1	時間数	15

授業の概要（主題）	リスク感性を育み、臨床実習１において患者様・自分自身・周囲の人たちの安全を意識し、行動することができる。
授業の到達目標	１．何が危険となりうるのかを予測でき、対応策を考えることが出来る （リスク感性を育む） ２．コミュニケーション力をアップさせる（説明できる力をつける） ３．グループワークの際、自ら積極的に意見を述べ、発表することができる

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	【総論】リスクとは？リスク管理とは？医療機関を取り巻く現状	早井
第２回	【総論】感染症対策・褥瘡対策・個人情報対策	〃
第３回	理学療法におけるリスク管理・医療情報の集め方（カルテの見方） 理学療法場面で必要なバイタルチェック・臨床検査データ（血液）	〃
第４回	訓練中止の基準確認	〃
第５回	ＫＹＴ事例（グループワーク）	〃
第６回	疾患別のリスク管理①	〃
第７回	疾患別のリスク管理②	〃
第８回	疾患別のリスク管理③・まとめ	〃

成績評価の方法（評価の基準）	■定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （１００％）　（　　%）　（　　%）　（　％）　（　　%）　（　　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	机上だけではなく、臨床実習において、患者様に対しての配慮が実践できるよう、知識の習得に努めてください。 また患者様やスタッフの先生方とのコミュニケーション力を高めてほしいです。
履修条件	

教科書	指定教科書なし
参考書	リハビリテーション　リスク管理ハンドブック（亀田メディカルセンター） 他、必要時、授業にて紹介します

科目名	臨床実習 2			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	中尾夕子　（実務経験*：☑有・□無）						
科目担当者	理学療法学科専任教員						
学　科	理学療法学科一部					学　年	2
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	5	時間数	200

＊実務経験とは PT・OT・ST の経験を指します。

授業の概要 （主題）	診療録等からの間接的情報収集や、対象者への直接的情報収集（検査・測定等）を通して、対象者の状態等に関する評価を体験する。さらに、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。
授業の到達目標	1)　理学療法の流れを理解する 2)　リスク管理や理学療法評価を、指導者の直接監視下で実践する

授業計画

回 数	内　容	担 当
11 月 7 日 ～12 月 16 日 （6 週間）	学内における事前学習、実習施設における臨床実習、学内における事後学習を通して学習する。 〈事前学習〉 感染症対策等医療安全管理 個人情報保護 実習前 OSCE（客観的臨床能力試験） 〈臨床実習〉 実習施設において実習指導者の指導・監督の下、情報収集や課題解決に向けた仮説を立てる過程を学習する 〈事後学習〉 実習の振り返り 実習後 OSCE（客観的臨床能力試験）	専任教員 実習指導者

成績評価の方法 （評価の基準）	☑臨床実習前評価 • 実技試験 • 筆記試験 （ 20 %）	☑臨床実習地評価 （ 60 %）	☑臨床実習後評価 • 実技試験 • 筆記試験 （ 20 %）
	臨床実習前後の評価および臨床実習地評価の結果を踏まえて学内会議において総合的に評価する。		
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	学内での実習オリエンテーションで事前学習を行い、医療従事者としての自覚をもち、実習に臨んでください。		
履修条件			

教科書	臨床実習で必要となるすべてのテキスト
参考書	

科目名	解剖学実習			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	中尾夕子（長崎リハビリテーション学院）（実務経験*：☑有・☐無）						
科目担当者	理学療法学科専任教員						
学　科	理学療法学科一部					学　年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	45

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	基本となる解剖生理学の知識を整理し、理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムの理解につなげる
授業の到達目標	身体を構成する組織と期間の構造と機能について説明できる

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	人体の構成、人体の発生	専任教員	16	尿の生成と排泄	専任教員
2	骨格、関節と靭帯	専任教員	17	生殖器系の構造	専任教員
3	筋系	専任教員	18	生殖と発生、成長と老化	専任教員
4	神経系総論	専任教員	19	内分泌系の構造	専任教員
5	中枢神経系、末梢神経系	専任教員	20	内分泌系の機能	専任教員
6	感覚器系	専任教員	21	体幹の局所・体表解剖学	専任教員
7	循環器系の構造	専任教員	22	上肢の局所・体表解剖学	専任教員
8	血液、心臓と循環	専任教員	23	下肢の局所・体表解剖学	専任教員
9	呼吸器系の構造	専任教員			
10	呼吸とガスの運搬	専任教員			
11	酸塩基平衡	専任教員			
12	消化器系の構造	専任教員			
13	消化と吸収	専任教員			
14	代謝と体温	専任教員			
15	泌尿器系の構造	専任教員			

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　☐実技試験（　%）　☐実習評価（　%）　☐小テスト（　%）　☐レポート（　%）　☐その他（　）（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	個人の積極的な学習への取り組みが求められます。知識を深めるためには知識の表出にも積極的に努めてください。
履修条件	

教科書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（第5版） 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学（第5版）
参考書	その他、国家試験に関連する参考書等

科目名	理学療法研究法			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）				（実務経験*：有）		
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	疫学統計並びに医療統計の基礎を学修し、統計資料や研究論文を適切に読み解く能力を修得する。さらに、エビデンス（根拠）に基づく理学療法実践の展開力を身に付けるため、研究の基礎について、倫理的側面を含めて学ぶ。
授業の到達目標	1. 研究の意義について説明できる。 2. 研究課題に基づき、先行研究を検索・批判的吟味することができる。 3. 研究課題に応じた計画立案・データ収集と分析・成果発表ができる。

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	オリエンテーション（シラバスの説明）、EBMと医学研究	吉田
第2回	研究課題の決定と文献レビュー、研究方法（測定指標を含む）の検討	吉田
第3回	検査・測定の検討（演習課題：HDDを用いた筋力測定）	吉田
第4回	検査・測定の実践（演習課題：重心動揺検査）	吉田
第5回	データベースの構築、データの要約（記述統計）	吉田
第6回	データ解析と結果の解釈①（差の検定）	吉田
第7回	データ解析と結果の解釈②（相関係数）	吉田
第8回	研究成果の発表、その他（研究デザイン・研究倫理）、総括（授業の振り返り）	吉田

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（80%）　☐実技試験（　%）　☐実習評価（　%）　☐小テスト（　%）　☑レポート（20%）　☐その他（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。 グループ演習では、各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。
履修条件	

教科書	毎回資料を配布する。 健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学　杏林書院
参考書	標準理学療法学（専門分野）　理学療法研究法　第3版　医学書院 医学的研究のデザイン　第3版　メディカルサイエンス・インターナショナル

科目名	臨床実習 3			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	中尾夕子　（実務経験*：☑有・☐無）						
科目担当者	理学療法学科専任教員						
学　科	理学療法学科					学　年	3
必修/選択	必修	授業の形態	実習	単位数	16	時間数	640

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	様々な疾患・状態の対象者に対し、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定等を学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、さまざまな理学療法業務についても理解を深める。
授業の到達目標	1)　理学療法士としてとるべき行動や態度を養い、チームの一員として自覚のある言動をとる 2)　リスク管理・理学療法評価・理学療法治療技術、指導者の直接監視下で実践する

授業計画

回　数	内　容	担　当
〈Ⅰ期〉 5月9日 ～7月1日 （8週間） 〈Ⅱ期〉 7月19日 ～9月9日 （8週間）	学内における事前学習、実習施設における臨床実習、学内における事後学習を通して学習する。 〈事前学習〉 感染症対策等医療安全管理 個人情報保護 実習前OSCE（客観的臨床能力試験） 〈臨床実習〉 実習施設において実習指導者の指導・監督の下、情報収集や課題解決に向けた仮説を立てる過程を学習する 〈事後学習〉 実習の振り返り 実習後OSCE（客観的臨床能力試験）	専任教員 実習指導者

成績評価の方法	☑臨床実習前評価	☑臨床実習地評価	☑臨床実習後評価
	• 実技試験		• 実技試験
	• 筆記試験		• 筆記試験
（評価の基準）	（ 20 %）	（ 60 %）	（ 20 %）
	Ⅰ期・Ⅱ期終了後に臨床実習前後の評価および臨床実習地評価の結果を踏まえて学内会議において総合的に評価する。		
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	学内での実習オリエンテーションで事前学習を行い、医療従事者としての自覚をもち、実習に臨んでください。		
履修条件			

教科書	臨床実習で必要となるすべてのテキスト
参考書	

科目名	ホスピタリティー論２			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	田中 美吉子（所属　合同会社ヒューマンナガサキ）　（実務経験*：有・(無)）						
科目担当者	田中 美吉子						
学　科	理学療法学科一部					学　年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	１５

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	①医療現場で求められるホスピタリティと患者＆家族との関わり方について 演習を取り入れながら実践的に学習する。 ②就職活動の基本的マナーを演習する。 *※①と②は実習や就活の時期により前後します。*
授業の到達目標	・セラピストとして求められる観察力、洞察力、感知力、そして真のホスピタリティを表現する力を養う。 ・忍耐力が求められる医療現場でのセルフ感情コントロールや状況に応じた地応力を身に付ける。 ・就職活動に必要なマナーを心得る→内定を取る。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第１回	チーム医療における職場の連携、社会人としてのマナー	田中
第２回	好感を与える挨拶と返事、礼状・手紙の書き方	田中
第３回	クレーム対応	田中
第４回	電話のかけ方と受け方	田中
第５回	就職活動における心構えとマナーについて	田中
第６回	自己分析、自己ＰＲ、志望動機など	田中
第７回	面接試験対策	田中
第８回	模擬面接	田中

成績評価の方法（評価の基準）	□定期試験	☑実技試験	□演習評価	□小テスト	□レポート	☑その他(学習態度)
	（　　%）	（ 60 %）	（　　%）	（　　%）	（　　%）	（ 40 %）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	授業への取組姿勢、態度、身だしなみ、他者との関わり方すべてを評価対象とします。 接遇マナーは習慣です。授業で学んだことを実生活でも常に意識しましょう。					
履修条件						

教科書	配布資料
参考書	パワーポイントをお借りします。

科目名	健康増進論			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院）　（実務経験*：有）						
科目担当者	吉田　大輔　（長崎リハビリテーション学院） 河村　綾子（きらら薬局 代表　薬剤師）						
学　科	理学療法学科　一部					学　年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	・　介護予防、健康増進と職域を拡げた理学療法士の活動実態を学ぶ。具体的には、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理のあり方について理解を深める。また、老年期障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と予防方法についても学習する。【吉田】 ・　**薬理についての知識を身につけ、臨床においての作用・副作用等を理解し、専門職として高品質なリハを提供できる。【河村】**
授業の到達目標	1.　健康の定義や概念、健康寿命について説明できる。【吉田】 2.　中高年期に抱える健康面の課題、代表的な老年症候群（認知症、フレイル、サルコペニアなど）の病態について説明できる。【吉田】 3.　**薬理学の基礎を理解する【河村】** 4.　**臨床での薬の使い方を理解する【河村】** 5.　**疾患ごとの薬物療法を学ぶ【河村】**

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	オリエンテーション（シラバスの説明）、健康増進と理学療法	吉田
第2回	中高年期における生活習慣病の予防（メタボリックシンドロームを含む）	吉田
第3回	中高年期における骨粗鬆症、骨折予防	吉田
第4回	高齢期における転倒・骨折の実態と対処法	吉田
第5回	健康長寿の実現に向けた取り組み①（認知症の病態理解と予防戦略）	吉田
第6回	健康長寿の実現に向けた取り組み②（サルコペニアの病態理解と予防戦略）	吉田
第7回	健康長寿の実現に向けた取り組み③（フレイルの病態理解と予防戦略）	吉田
第8回	身体活動向上のための評価と介入プログラム、総括	吉田
第9回	**薬理学の知識①**	河村
第10回	**薬理学の知識②**	河村
第11回	**薬理学の知識**	河村
第12回	**臨床薬理学（薬の使い方）**	河村
第13回	**薬物各論①**	河村
第14回	**薬物各論②**	河村
第15回	**薬物各論③**	河村
第16回	**まとめ**	河村

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（80%）	□実技試験（　%）	□実習評価（　%）	□小テスト（　%）	☑レポート（20%）	吉田
成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）	□実技試験（　%）	□実習評価（　%）	□小テスト（　%）	□レポート（　%）	河村

準備学習 **学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ**	準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。【吉田】 グループ演習では、各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。【吉田】
履修条件	**必修科目であるので、必ず出席すること。**

教科書	シンプル理学療法学シリーズ　地域リハビリテーション学テキスト（南江堂）【吉田】 その他、補足資料を毎回配布する（厚生労働白書　平成 26 年版など）【吉田】 **リハベーシック　薬理学　臨床薬理学，医歯薬出版【河村】**
参考書	フレイルの予防とリハビリテーション　医歯薬出版【吉田】 サルコペニアと運動－エビデンスと実践－　医歯薬出版【吉田】

科目名	スポーツ理学療法			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	一瀬　浩志（所属　貞松病院　リハビリテーション科）（実務経験*：有）						
科目担当者	一瀬　浩志						
学　科	理学療法学科　一部			学　年	3	授業の形態	講義
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	各関節におけるマルアライメントと、その結果生じる応力集中に着目し、 病態、評価、リハビリテーションについて座学と実技を行います。
授業の到達目標	スポーツ障害に対する評価ができ、復帰のためのリハビリテーションプログラムを立案することができる。

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	スポーツ障害に対するリハビリテーション、総論	一瀬
第2回	スポーツ障害に対するリハビリテーション、総論	一瀬
第3回	下肢の代表的な疾患の病態、評価、リハビリテーション	一瀬
第4回	下肢の代表的な疾患の病態、評価、リハビリテーション	一瀬
第5回	腰部疾患の病態、評価、リハビリテーション	一瀬
第6回	腰部疾患の病態、評価、リハビリテーション	一瀬
第7回	上肢の代表な疾患の病態、評価、リハビリテーション	一瀬
第8回	上肢の代表な疾患の病態、評価、リハビリテーション	一瀬
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）　（　％）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	解剖学、運動学、整形外科について復習をしておいて下さい。
履修条件	規定の出席日数、定期試験の成績

教科書	なし 事前にメールにて配布資料を送付します。
参考書	なし

科目名	理学療法セミナー3			開講年度	2022	期	後期
科目担当責任者	中尾夕子（長崎リハビリテーション学院）（実務経験*：☑有・☐無）						
科目担当者	理学療法学科専任教員						
学　科	理学療法学科					学　年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	4	時間数	60

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要（主題）	理学療法士国家資格取得に必要な専門基礎科目・専門科目の知識を統合し、理解を深める。
授業の到達目標	理学療法士国家試験受験に値する力をつける。

授業計画

回数	内　容	担当	回数	内　容	担当
1	解剖学	専任講師	16	小児理学療法	専任講師
2	生理学	専任講師	17	骨・関節障害理学療法	専任講師
3	病理学	専任講師	18	脳血管障害理学療法	専任講師
4	運動学	専任講師	19	神経・筋障害理学療法	専任講師
5	人間発達学・小児科学	専任講師	20	脊髄損傷理学療法	専任講師
6	内科学	専任講師	21	補装具療法	専任講師
7	神経内科学	専任講師	22	ADL	専任講師
8	臨床心理学	専任講師	23	理学療法概論	専任講師
9	精神医学	専任講師	24	総合学習①	専任講師
10	リハビリテーション概論	専任講師	25	総合学習②	専任講師
11	生体力学	専任講師	26	総合学習③	専任講師
12	運動療法	専任講師	27	総合学習④	専任講師
13	物理療法	専任講師	28	総合学習⑤	専任講師
14	理学療法評価法	専任講師	29	総合学習⑥	専任講師
15	内部障害理学療法	専任講師	30	総合学習⑦	専任講師

成績評価の方法（評価の基準）	☑定期試験（100%）　☐実技試験（　%）　☐実習評価（　%）　☐小テスト（　%）　☐レポート（　%）　☐その他（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	課題に対して個別学習とグループ学習を組み合わせて実施します。個々の積極的な学習への取り組みが重要となりますので、意識して取り組んでください。また、グループ学習において知識を表出することは理解を深め、知識の定着に有用です。積極的な取り組みを期待します。
履修条件	

教科書	随時、必要な教科書を提示します
参考書	クエスチョン・バンク（共通問題） クエスチョン・バンク（専門問題）

科目名	理学療法管理学			開講年度	2022	期	前・後
科目担当責任者	西村　健　（社会医療法人三佼会　リハビリテーション科　理学療法士） （実務経験*：有）						
科目担当者	西村　健						
学　科	理学療法学科一部					学　年	3年
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	2単位	時間数	30時間

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	一般的に身の回りの事項を題材に管理に関する基礎知識を学習して、更に理学療法部門の業務を適正に管理運営するにあたっての管理についての理解を深め、現場で活動する医療組織人としての適性を高める事を目的とする。人事管理や業務管理、管理者に求められる能力とリーダーシップ、チームの一員として求められる能力とフォローワーシップ、自己管理と能力開発、学生指導などを学び、障がい者や高齢者など対象者の抱える問題を適切に解決できる、部門管理のあり方について理解を深める。
授業の到達目標	理学療法管理の意義と目的について理解する チーム医療と理学療法士の役割について理解する 医療・保健・福祉を取り巻く諸制度ならびに職業倫理について理解する

授業計画

回　数	内　容	担　当
第1回	管理とマネジメントの概念	西 村
第2回	病院組織の特性と理学療法管理の視座	西 村
第3回	理学療法管理学とは	西 村
第4回	理学療法士の職業倫理	西 村
第5回	組織運営とマネジメント	西 村
第6回	理学療法士の職場倫理	西 村
第7回	理学療法業務のマネジメント	西 村
第8回	教育・研究のマネジメント	西 村
第9回	医療・保健・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント①	西 村
第10回	医療・保健・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント②	西 村
第11回	リスクマネジメント①	西 村
第12回	リスクマネジメント②	西 村
第13回	生活期を支援する理学療法マネジメント	西 村
第14回	理学療法士の生涯教育システム	西 村
第15回	チーム医療の重要性、多職種連携①	西 村
第16回	チーム医療の重要性、多職種連携②	西 村

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　☑その他（授業内） （ 60%）　（ %）　（ %）　（ %）　（ %）　（ 40%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	教科図書の目次を参考に学習内容の全体像を概観しておくこと
履修条件	

教科書	奈良勲 編集代表「理学療法管理学」医歯薬出版
参考書	授業内で提示する

科目名	疼痛理学療法学			開講年度	2022	期	前期
科目担当責任者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）（実務経験*：有）						
科目担当者	井ノ上　修一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科）						
学　科	理学療法学科一部					学　年	3
必修/選択	必修	授業の形態	講義	単位数	1	時間数	15

＊実務経験とはPT・OT・STの経験を指します。

授業の概要 （主題）	有痛性運動器障害について 運動器機能障害に対する筋インバランス影響 具体的アプローチ（MSIアプローチ・ヤンダアプローチを含む）
授業の到達目標	運動器機能障害における筋インバランスの影響について理解する 筋インバランスに対する評価・治療法を実践できるようにする

授業計画		
回　数	内　容	担　当
第1回	マッスルインバランスの科学的基礎	井ノ上
第2回	姿勢、バランス、歩行分析	井ノ上
第3回	運動パターンの評価①	井ノ上
第4回	運動パターンの評価②	井ノ上
第5回	筋の長さテスト①	井ノ上
第6回	筋の長さテスト②	井ノ上
第7回	マッスルインバランスに対する治療	井ノ上
第8回	臨床症候群	井ノ上
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

成績評価の方法 （評価の基準）	☑定期試験　□実技試験　□実習評価　□小テスト　□レポート　□その他(　　) （100%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）　（　%）
準備学習 学習へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ	事前に教科書を概観しておくと理解しやすいと思います “？”と思った瞬間が、“わかる”チャンスです！！ 先延ばししない様に！！
履修条件	

教科書	マッスルインバランスの理学療法（運動と医学の出版社）
参考書	